

市民の願い

わたしたちは
水と緑と詩のまち 前橋の市民です
日々のしあわせと伸びゆくこのふるさとの
明日をめざして
1 やさしい心をもとう
1 強いからだをつくろう
1 たのしく働こう
1 自然をまもろう
1 文化を大事にしよう

前橋まえばし

8月1日

昭和60年(1985年)・第817号

発行・前橋市役所 〒371前橋市大手町二丁目12-1・電話24局1111(大代表)／編集・総務企画部広聴文書課／毎月1日・15日



前橋駅前の「建設と平和」の像とケヤキ並木は、本市戦災復興のシンボル。今、「水と緑と詩のまち」に欠かせない景観です。

前橋空襲から40年

若い世代に伝える私の体験

○ として保存してください いくつかまた お役にたちます ○

今年は、第二次世界大戦が終わって四十年になります。その終戦十日前の昭和二十年八月五日、私たちのまち前橋は、米軍大型爆撃機B29九十二機による大空襲を受けました。空襲は、市民五百三十五人の命を奪い、市街地の八割を焼土と化する大被害をもたらした。市民は計り知れない悲惨と苦難を強いられました。「広報まえばし」は、四十周年を機に市民の空襲体験の手記を募りました。それは、今、平和と繁栄の中にあって、私たちのまちが歩んだ歴史のひとこまを見直すことに、大きな意義があると思われるからです。ここに寄せられた五十一編は、いずれも今なお消すことのできない強烈な体験が如実につづられています。歴史の証言者からの、次の世代に伝える貴重なメッセージとして、受けとめようではありませんか。

応募体験手記51編、2面～9面で紹介

歴史見直し

ふるさとへの愛を



前橋市長
藤井 精一

このたび、前橋空襲四十周年にあたって、「若い世代に伝える前橋の空襲私の体験」をテーマに、市民の皆様から手記を募集いたしました。果たして、応募された手記の一つ一つは、いまだに鮮烈な記憶となつて残るあの時の体験を、生々しく描き出しています。

私は、四十年前にこの前橋の地で起こった戦火の悲惨さを思い、上げます。



連日のように本土に襲撃したB29大編隊

で一時十五分にわたり後続機の爆撃が全市街を覆いました。この夜、本県には午後九時に警戒警報、九時四十五分に空襲警報が発令。九十九里浜を経て東方から本市上空に侵入したB29は、後の米軍の報告によると九十二機、焼夷弾六百九十一ト、爆弾三十二トを投下しました。

市民の死者535人

この大空襲によって本市が受けた被害は次のとおりです。

前橋空襲の概要

全人口の65%が被災

▽死者535人、負傷者六百三十五人、被災面積二・六五七平方キロ(全市域の二・二%)、市街地の六〇%、▽被災戸数二万二千四百六十戸(全市戸数の五五%)、市街地戸数の七五%、▽被災人口六万七千三百三十八人(全市人口の六五・二%)、市街地人口の八七・六%

被害は更に、昭和二十九年以後本市に合併した周辺町村にも及びました。上川淵、下川淵、芳賀、桂賀、東、元総社、南橋、木瀬(永明、城南の一部)各地区の合計は、死者四十七人、負傷者百一十四人、被災戸数五百一十一戸に上ります。(新市域の数字は、八月十四日の空襲の分も含む)

(現在の三つの所と) ○この項の資料は「戦災と復興愛女学校が炎上、以興」から取材。写真は、毎日新後、十一時四十五分、開社提供。

着用品を必ず！シートベルト……10面

ピックアップ

- ▽サンハウス建設用地区画を分譲……10面
- ▽児童手当等の現況届が必要……12面
- ▽暑さに負けずみんなスポーツ……13面
- ▽魅力のカルチャー講座いろいろ……14面
- ▽児童文化センターの夏休み行事……15面
- ▽ホテルをふるさとに。鈴木さん……16面

隣家の青年が 片腕を無くす



本町二丁目
高橋 和夫 54
教員

昭和二十年八月五日、当時前橋中学の二年生であった私は、富士見村の農家に泊まり込みの勤労動員を終え、やまと短い夏休みに入った日であった。久しぶりの前橋は、激しい戦争の埒（らち）外のように緑をたたえていた。やがて家族と夕餉（ゆこう）の団欒（だんらん）を交わす間もなく、東部軍管区情報の警戒・空襲警報がラジオで報じられ、自宅の裏に設けられた共同防空壕に待避した。壕の中は近所の人々のいざしが充満し、世間話を交わす余裕もなかった。東の彼方からB29爆撃機の轟音（ごうおん）が近づく

生き地獄の中 で助かった命



利根郡水上町
須藤 和子 53
主婦

と同時に、竹やぶを風が吹き抜けるような焼夷弾の落下音が真夏のしじまを破った。壕を飛び出すと我が家の電話室の辺りが紅蓮（ぐれん）の炎に包まれて、熱風を巻き起こしていた。とにかく消化しなければいけず、玄関から家に飛び込もうとした矢先、何かにつまづき転倒した。

若い世代に 前橋空襲

「緑の街」前橋が蜜気（みつげ）に（しんきょう）のように天を焦がしていった。

報告令、続いて空襲、その時バラバラと焼夷弾が落ちたのでしよう、音がしたとたん父が「裏の方に火の手が上がったぞ、一緒に逃げよう」と叫びました。私はいつものように背中（しん）にリッパ（リッパ）を背負い逃げましたが、途中家族とはぐれ、焼夷弾が落ちる中、火の少ない方へと大人の後につき空襲（くわく）家へ土足で裏から表、表から裏と、逃げ回り最後は広瀬川に飛び込みました。川は避難した人でいっぱいでした。間もなく川の両側が火の海となり肩までつかった水は温かく火の粉と暑さのどは渴き、川の水



立川町(千代田町四丁目)新昇ホール跡

脳裏から消え ないあの恐怖



駒形町
諏訪 栄子 47
看護婦

やつと思いで荒牧の知人宅までたどり着き、少し休ませてもらいました。弟はいつも泣き虫なのに、それなりを感じたのでしよう。一度も声を出さずんできました。明け方、家が心配で足を引きずりながら戻りました。途中多くの死人を見、腕を失った血だらけの人も見ました。う

めき声もいっばいでした。家は焼けただけ、柱一本残っていないことになると思います。生き延びて、煙がいつばいで、近寄ることもできません。ただ、母が疎開先へ送るつもりで、茶箱に詰め、重ね置いた衣類が周囲から焼けたのでしよう。倒れず、くすぶりながら立っていたのが実に印象的で、急に母と二人泣き出したのを覚えていました。防空壕の中に、大事に入れた最小限の必需品すら、何一つ使えなかった。逃げず、防空壕の中に三人でいたら、恐ろしくなりまし

た。家の焼け跡から、焼夷弾が空っぽになって、十八発、不発の束のまが一束、後になって掘り出されました。たった百坪弱の屋敷にです。当時のすさまじさが、胸を突き上げる思いです。翌年母は他界してしまいました。当時一歳の弟は今四十になり、三兄の父親になりました。でも、あの夜の恐怖は私の脳裏から消えません。七歳の時のあの経験は消せません。二日後、兵隊のトラックに積み上げられてどこかに運ばれて行った、多くの人たちの死体はどこへ行ったのでしう。忘れてはいけな

いあの日のことを、自分に言い聞かせるつもりで記しました。

五年生、父の 遺体にする



平和町二丁目
大橋 隆治 50
公務員

本市空襲犠牲者五百三十五柱に対し、いまだ国家補償のないまま、早や四十年が経過します。享年四十六歳の父も、犠牲者の一人です。二十年七月に入り、連日連夜の空襲、当夜の避難を拒む私（国民学校五年）に、今夜はふだん様子（ようす）が違（ちが）うから、荒牧の叔父さんの家に行くよう父に言われた。姉と一緒に、萩町丸登製糸工場まで来ると空襲警報、既にB29の爆音が響く。探照灯は敵機（てきき）の道案内となるばかり、迎撃のない無抵抗、焼夷弾は雨あられと降る。全市は数分（すんぶん）で火の海と化し、子供の泣き叫ぶ声、直撃弾に倒れる人、地獄絵（じごくえ）そのものでした。川の中、

たんぼの堀に伏し幾度もこれで最期かと思った。六日朝、上小出消防団より、父の爆死を告げられた。当時班長の父は退避（たいひ）が後、上小出地内において、無念の死を遂げたのです。爆風で両眼突出、腕は右ひじ関節より切断、遺体の形相は無残の一言（ひとこと）でした。私は悲しみと、恐怖のあまり、顔面蒼（そう）白（はく）、あごをガチガチ鳴らし、遺体になり「父ちゃん、父ちゃん」と小聲で泣くばかりでした。遺体は向町橋林寺へ収容、境内は無残な遺体の山となる。茶吐（だび）に付す間もなく敵機の襲来、身元不明の焼死体、赤黒く焼け焦げた表皮が風に舞い恐ろしい光景（けい）でした。焼け跡はくすぶり完全に焼け野原となった前橋、岩神町から駅がまる見えでした。

当時の悲しい場面が今も夢に出る。八月五日が来る度に、子供たちに「平和の尊（た）さを、口やかましく教えています。

壕の扉開いて 熱風吹き込む



東京都板橋区
菅原 誠之助 50
大学助教授

六年生の夏休みだった。祖母に「警戒警報」と起こされ、ラジオとサイレンを聞きながら服を着、ゲートルを巻き、防空ずきんをかぶって廊下から三尺と離れていない半地下の防空壕へ急いだ。雨で入口の扉が重く二人でやっと開け、祖母は家に戻り一人で壕の中でうずくまる。

B29、一機の爆音とともにザアという音がして、重い壕の扉がパツと開き熱風が吹き込んできた。背中（しん）で扉を少し上げてみた。家中（うち）は真っ赤だった。いったん閉じたが危ないと思っただけで扉を押し上げて、はたして飛び出し第二公園へ行っ

今も脳裏に焼 き付く地獄絵



文京町三丁目
西林 兼宣 52
教員

昭和一ケタ生まれの私たちが、日露戦争の話（はなし）を耳（みみ）にしてもピンと来ないように、第二次世界大戦（たいせん）を今（いま）の話題（わだい）の前橋空襲の苦い体験（たいけん）を今（いま）の人に語（か）っても、なかなか受け入れてもらえないのではないだろうか。だいたい空襲（くわく）という語（か）すら辞典（じてん）の中で化石（かせい）となっている。昭和二十年八月五日、どうこうと爆音をたてて暗

夜（よ）を飛行（ひこう）するB29の大編隊（へんたい）、その不気味（ふきみ）な天空（てんくう）から、あたかも花火（はなび）が落下（りゅうか）してくるような焼夷弾（しょうえだん）の雨（あめ）、私の住んでいた所（ところ）（上石倉）はそれによって村の半分（はんぶん）を焼失（しょうし）した。当時（たうじ）小学六年（しょうがくねん）の私は、竹やぶの下（した）に掘（ほ）られたかび臭（かびくさ）い防空壕（ぼうくわう）に母（はは）と避難（ひなん）して燃（も）える炎（え）にこのままでは焼け死（し）んでしま（う）とぞこを抜け出し、母（はは）に引（ひ）かれて上越（じょうえつ）線（せん）西（せい）の水田（みづで）地帯（ちたい）に移（うつ）動（どう）した。見（み）るとあちこちに火（ひ）の手（て）が上（あ）がっていた。その時（とき）手にして（いた）物（もの）と言（い）えば、ともにもふろしきに包（くる）んだわず（）かばかりの貴重（きこう）品（ひん）であ（り）た。父（ちち）は勤

務（む）していた小学校（しょうがっこう）の警備（けいび）とい（う）ことで留守（くす）だった。火急（ききゅう）の折（を）に父（ちち）親（おや）のい（ない）不安（ふあん）と心細（こま）さはたとえようもなかつた。翌朝（あした）目（め）にしたものは、遮（し）る物（もの）の無（な）い一望（いちぼう）の焼け野原（やばら）と余燼（よじん）（じん）であ（り）た。一方（いつぱう）、川（が）ひとつ隔（へ）った街（まち）中（な）へ行（い）ってみると、い（い）ざされたような倉庫（ぐら）が焼け残（のこ）っていて、それは今（いま）開（ひ）けるとたちまち発火（はつ）して中（うち）の品物（しんぶつ）が一（い）気に燃（も）え出すと言（い）われた。黒（くろ）く焼（や）け焦（こ）けて横たわ（る）大（おほ）きな馬（うま）の死（し）体（たい）、焼夷弾（しょうえだん）の油脂（しゆじ）によ（り）って白（しろ）い腹（はら）を見（み）せて浮（う）き上（あ）が（る）た魚（い）の群（ぐん）れ、それらは四（よ）十年（ねん）後の今（いま）も脳裏（のうり）に焼（や）き付（く）いて離（は）れない地獄（じごく）絵（え）である。

B29の星のま ーくはつきり



朝倉町
目崎 ハル子 52
主婦

昭和二十年八月五日夜、アメリカB29の爆撃により前橋市は、一夜（ひとよ）で崩壊（くわくわい）の町（まち）と変わり、大勢（おほし）の犠牲（ぎせい）者（しや）が出（で）た。空襲（くわく）と同（どう）時に私の家族（かぞ）も二子山（ふしやま）へ避難（ひなん）して行くはず（は）でしたが、泣き叫（な）ぶ人（ひと）や我先（われ）先に逃（に）げる人（ひと）で地獄（じごく）のよ（う）な渦（うず）に巻（ま）き込ま（れ）須賀農園（すがのうゑん）の橋（はし）の上（う）まで逃（に）げてきて、炎（え）の海（うみ）に包（くる）まれ西（せい）の空（そら）を真っ赤（あか）に染（ぞ）め

て燃（も）える市内（しち）をぼう然（ぼうぜん）と眺（み）ていま（し）た。突然（とつぜん）、飛行機（ひこうき）が二機（ふたき）上空（うへ）を旋回（せんかい）し、低空（ていくう）飛行（ひこう）してき（た）。それには、真白（ましろ）の星（ほし）のマー（く）がはつきり見（み）えた。だ（れ）か（が）「B29だ、伏（ふ）せろ」とどなるとみんなが頭（かぶ）を抱（かか）えて地面（じめん）に伏（ふ）せ（た）。ど（の）くら（い）の時間（じかん）が過ぎ（た）のかわ（か）かりま（せ）んが、気（き）が付（く）くとB29はど（こ）かへ立ち去（さ）っていま（し）た。B29が焼夷弾（しょうえだん）を落（お）とせ（ば）、こ（こ）でも犠牲（ぎせい）者（しや）が出（で）るところで（し）た。二子山（ふしやま）へ逃（に）げた人（ひと）た（ち）が犠牲（ぎせい）に（な）り、クラ（ス）の友（とも）達（だ）もそこ（こ）で亡（な）くなりま（し）た。私（わたし）た（ち）が交番（こうばん）の四（よ）つ角（かく）を曲（まが）らずに逃（に）げてきた（が）、人（ひと）生（な）の分（ぶん）かれ

道（みち）となりま（し）た。空襲（くわく）から十（じゅう）日後（ご）の八月十五日（はちがつにじふご）に終戦（しうせん）となりま（し）た。絶望（ぜつぼう）、食糧（しかりやう）難（が）、暗（く）い不安（ふあん）の毎（まい）日（に）が続き、肉親（にくしん）を亡（な）くし、がれき（がれき）の山（やま）と崩（くずれ）れ落ちた小学校（しょうがっこう）の焼け跡（あと）で卒業（そつぎやく）式（しき）を迎（むか）え、私（わたし）た（ち）の世帯（よせ）は恐（おそ）ろしい戦争（せんそう）を体験（たいけん）して夢（ゆめ）中で生（な）きて、巡（めぐ）り巡（めぐ）って過（か）ぎ去（さ）った四（よ）十年（ねん）間（かん）で（し）た。荒（あ）れ果（く）れた灰色（こいろ）の敗戦（はいせん）の焦土（しょうど）から立派（りつぱ）な復興（ふくしゅう）を成（な）し遂（つい）げた前橋（まえばし）のこ（こ）を、悲（かな）しな戦争（せんそう）の古傷（ふるきず）を知らない世代（せだい）の人（ひと）た（ち）が忘（わす）れずに、明日（あした）への希望（きぼう）を限（かぎ）りなき未（み）来（らい）に向（む）けて、歩（あ）み続（つづ）けてほしいと願（ねが）ってお（り）ま（す）。

た。赤（あか）い空（そら）の中（な）に臨江閣（りんかうかく）の黒（くろ）い屋根（やね）が見（み）えた。B29が次（つぎ）々と花火（はなび）（焼夷弾（しょうえだん）がこ（こ）見（み）えた）をまき散（ち）らし、赤（あか）い空（そら）がみ（み）る（る）広（ひろ）が（た）つてい（く）。翌日（あした）、祖父（そふ）と知人宅（ちじんたく）で再会（さいかい）した（が）祖母（そぼ）は僕（ぼく）を探（さが）すた（た）めにや（や）けど（ど）を（し）た。すまな

いことをした（し）たと思（おも）った。夕方（ゆふがた）、焼け跡（あと）で積（た）んであ（り）た新聞紙（しんぶんし）の中（な）が焼（や）け残（のこ）ったの（の）を（見）て、「紙（し）でた（た）くさん包（くる）んでお（く）と焼（や）けな（い）よ」と言（い）って笑（わら）われた。子供（こども）心（こころ）に焼（や）けない工夫（くわふ）を考（かんが）えていたの（の）だ（らう）。壕（ごう）に焼夷弾（しょうえだん）の筒（つつ）が突き刺（さ）さ（り）つ（て）お（り）、堀（ほ）つ（た）ら石（い）に当（あた）つ（て）止（と）ま（り）つ（て）いた。翌（あした）日（にち）父（ちち）と赤（あか）い足袋（たび）（ちやうど）だ（い）物（もの）であ（る）う）を履（は）いて帰（かえ）京（きやう）した。当時（たうじ）お世話（せわ）にな（な）った方（かた）々（々）や友（とも）達（だ）はど（う）し（て）お（ら）れる（ら）う（う）だ（らう）。赤（あか）い足袋（たび）はだ（だ）しが今（いま）も鮮明（せんめい）に脳裏（のうり）に焼（や）きつ（て）い（る）。石（い）がな（な）かつ（た）ら……、扉（かど）が開（あ）けられな（な）かつ（た）ら……、そ（そ）していま（いま）だサイレン（さいれん）が鳴（な）ると「また、何（なん）か」と思（おも）う。

焼け残った親類の家を転々

平和町二丁目
豊永 栄子 59



そのころ私は新米の教師で、学徒動員の女学生を引率して毎日太田の中島飛行機に通っていました。帰りの電車でN先生に会いました。先生は用事があって警察に行った時、米軍が投下した宣伝ビラを見たとのこと、それには日本の地図が描いてあっていくつかの都会に印がついていて、今この都会が空襲されようとしているのにまだ抵抗を続けるのかと書いてあったそうです。そしてその都会の中に前橋が入っていたから注意するようにと話してくださいました。前橋が空襲に遭ったのは忘れもしません。その話を聞いた八月五日の夜だったのです。

私の家は公園に近かったので隣近所に焼夷弾が落ち、周りの家が火を吹いてから避難しました。門を出たら道のあちこちから火柱が立っていました。やっとの思いで今のさちの池の辺に逃げました。そのころはたんば



小柳町(住吉町二丁目)付近

直撃受け友達二人が犠牲に

朝日町四丁目
安堵喜代子 58



警戒警報発令をかすかに耳にしながらいもものようにすぐ解除になるくらいに聞き流し、ずうずうしくまた眠りこけたとたん空襲く〜と同時に爆音、そ

今も風化しない鮮明な痛み

南町三丁目
横山 和子 58



八月五日の夜、B29の編隊は、低く重くおなかの底に響くような不気味な爆音をとどろかせて前橋の上空に侵入して来た。かなりの編隊である。ブーン、ブーン、その不気味な音は家の上空を通り抜け、西北の方向にバラバラと焼夷弾の雨を降らせた。夜空にまるで花火のようなシルエットを残しながら……。そして、編隊は急旋回しまるで市街地を包囲するように、東

に、また南へ、無数の焼夷弾を落とす始まった。大変だ、逃げ道がふさがれそうだと。私たちは、まだ火の手の上がつてない赤城山の方へ逃げようと、やみの中を必死で駆け出した。威嚇するような爆音、照明弾、砲弾のさく裂音、バリバリという機銃掃射の音……。それらが頭上に近くなると、慌てて県道や草の中に伏せる。そして、いつの間にか大勢の人々に押されて、うろち、母や妹と離れ離れになってしまった。

あの夜、火の手の中に次々と倒れ、のけぞっていった黒い人影のシルエット。燃え続けた前橋の火の手、そして、負傷者が次々に運び込まれた旧女子師範の講堂の惨状……。翌朝、市街地がほとんど焼け、赤城山が目前に現れた時の驚き、そしていつまでも焼けて熱かった八間道路のほてり……。四十年たった今でもそれらは、風化することなく、鮮明な痛みとして残っている。

雲の中からの爆音しかかる

住吉町二丁目
河島 勝枝 59



その時私は十九歳だった。民間防衛の一員として防空監視隊本部に籍を置いていた。ちょうどこの日は勤務が非番のため家

にいた。雲の中から爆撃機の鈍い爆音がのしかかるように聞こえてきた。前橋空襲を知らせるラジオの放送もぶつりと聞こえなくなつた。兄たちは戦地へ行っていない。私は年老いた両親を細井の方へ、そして兄嫁とその子供たちは三俣の方へ避難させた。ふと気がついてみると前橋は二面火の海となつていて三俣の方で人がうんと死んでいると大きな声を出しながら走って行く人もいた。けがを負い道端で倒れている人もいた。逃げたためだれかが敷き布団を捨てて行つた。直撃を受けなければ助かるかも知れないと思い、私はそれを拾い水に浸し重くなつたその布団を頭からかぶった。

敵機は去り悪夢の夜が明けた。見渡す限り焼け野原となつていて。私の家も何一つ残さず皆焼けてしまった。その焼け跡に家族が真っ黒な顔をしていつの間にか集まってきたのか、皆ただぼう然と立っていた。思い出してもぞつとくるあの悲しい空襲、もう二度と来ないでほしい。そしていつまでも今のような平和の前橋であってほしい。私もささやかながら、今地域で福祉の仕事をしてもらっている。そんな日々の中で私と同じように空襲を体験してこれたお年寄りの皆さんと一緒に、これからは楽しく意義のある毎日を送りたいと願っております。

一方では家族を失い一人ぼっちになったり、無事でよかったと抱き合つて涙する者、悲喜こももとした。いまだにあの姿は目に映ります。私の友人二人が逃げ切れずに直撃でやられまして。次々の悲報に涙が絶えませんでした。見渡す限り焼け野原の前橋市。敵が残していった残がい、曲りくねつたあめのような水道管、日陰一つない焼け跡、防空壕での生活……。二度と繰り返したくないあの恐怖です。

若い世代に

前橋空襲

がれきの中に土蔵が点々と

大手町三丁目
佐鳥 和子 58



ここ二三日急に暑くなった。夜寝たと思ったら空襲警報発令で起こされた。連日の空襲でほとんど夜、昼のない毎日だった。母と甥(おい)と子供たちは防空壕へ、義姉は七月三十一日に生まれた赤ちゃんを抱いて土蔵の中に避難した。今夜は危ないぞ」と父の声を聞いた時、上越線で汽車の音がボーとした瞬間、

ブーンと飛行機の音と一緒に空からドカン。村の東の空が真っ赤になった。あつた家が姉と一緒に竹やぶまで走り、布団を頭からかぶり、顔をそっと出すと間口十間半の大きな家が照明弾の明かりにくっきり見え、ほつとする間もなく落下する焼夷弾の音に布団をかぶり、何回か繰り返している間に飛行機の音もなくなった。村では東も北も火事になった。母や姉の止めるのも聞かず裏道を通って動め場所へ走った。同級生の家に火が着いて燃えていた。学校へ駐とんしていた兵隊さんも出勤した。つかの間に何軒かの家が焼けてしまった。寝つかれなかつたが目覚めると母が頭痛がし、目がかすんで見えないと言いつきられなくなつてしまった。母が前橋の親せきのことを心配するのだから自転車で前橋へ行くと、大渡橋から町へ入ったが人もほとんど見えず町は一望に焼けてしまった。焼け残った通りを通つてやつと町の中へ出た。道いつぱいに電柱は倒れ、電線は切れガラスは散らばりまだ煙が出ていて、消防の人が、死亡した人を担架で運んでいた。自転車を抱え、中央通りに出るとなんと町全体焼土と化した麻屋の大きな建物と本町、紺屋町、桑町、横山町など焼けたがれきの中に土蔵が点々と残っているのが印象的だった。

軍隊で知った前橋空襲中

青柳町
石川 元平 58



当時私は、十八歳青春の真っ盛り。立川陸軍飛行学校を卒業、終戦時教導飛行師団「翼」戦闘飛行集団所属、中部日本本土決戦要員として、更に高度の戦闘技術修得。連日連夜の空襲の間隙(けき)を縫って、猛勉強。明日の命はもうろく、生死紙一重、最年少ながら国運の盛衰を双肩に、灼(や)く熱燃ゆるがごとく愛国心、最大、最強の戦力たるべく、戦局のばん回に青春の血潮を大空に駆け、戦闘機乗りを自負。三月十日東京大空襲の際も、東京の空の下、力の限界を試み、今も一人ひそかに誇りに思っています。終戦間近の、とある夜、実戦

残ったのは防火用水槽だけ

文京町三丁目
高瀬 雅子 59



私たち群馬師範学校女子部二年生は、学徒動員で伊勢崎の工場に働いていた。八月五日夜先生から「工場が疎開移転のため明日から一週間休み。生徒は帰宅。集合は新工場へ」と指示を受けている時空襲警報、すぐ避難。爆音はもう頭上にある。やつと近くの畑まで出てあせ道に伏せる。体はブルブル震えている。B29は空を覆つて西へ行く。パツと西の空で何か光つたと見ると、あつという間に光は増え、広がり、管制下のやみは昼の明るさ。そのうち地上の一面が赤くなり、みるみる広がる。火事だ。爆弾だ、高崎か安中か等の中、先生の「前橋だろう」とい

訓練のため、佐渡、津軽海峡上空での行動が急ぎ、情報通信担当に変更され、通信室の空気が、刻々と流れる諸情報で割れるような「ブザー」音の交差。緊迫した中に、突然「前橋北部を旋回中」という東部軍管区情報を傍受、はつと一瞬我に返り、いつもは就床時、家や両親、兄弟のことを思いながら寝ていたのですが、このところ戦局の不利、転属も重なり、睡眠も少なく、心身ともに疲労の極に達し、深く思いをはせる精神的余裕ももたないままの状況でしたが、この時は家のことが心配で飛んで行きたい気持ちでした。この時が八月五日の前橋大空襲の夜でした。それにしてもあれから四十年、平和の毎日がいかに幸せであるかを感謝するとともに、九州・沖縄上空等で散つた同期生の冥(めい)福を祈る今日このごろです。

言葉に私は声を失った。赤い炎は天まで焦がし、被害の甚大を思わせる。サーチライトが数条、空しく走る。一睡もせず朝を迎えたが、午前中鉄道は不通。ようやく昼近く前橋駅前に立つと、建物も並木も道もない焼け野原から、大きな赤城山が目の前に立っていた。鼻をつく臭気に涙が出た。見当をつけて立川町へ向かう。防火用水槽だけが残っていた。途中、戸板で運ばれる遺体の、むしろの下から黒焦げの足が見えた時には、思わず合掌してしまった。幸い家族は無事で関根町の親戚にいた。当夜父は夜勤で留守、母は娘二人の手を引き、火の海を必死で逃げたという。愚痴を言わない父も、晩年お酒が入ると、過去帳を焼いたことは悔んでいた。私は敗戦の翌年から三十七年間、教壇に立った。正に激動の世であつた。平和の尊さについては、常に子供たちと話し合った。

前の稲田に機銃の弾丸の雨



大手町三丁目
楠 博子 63

昭和二十年八月五日、この日夕刻より退避命令下り、赤城山方面に向かつて人は退避しつつあった。叔父の家に疎開していた私どもの家族は、私を残した以外北の方面に退避して行った。

私は叔父の家でもあり、義理もあり、叔父、叔母に手伝って家を守ることにした。退避する人たちの足音もやまぬうちに敵機は、頭上に来てしまい爆弾がばかんばかんと落下し始めた。隣の家に焼夷弾が落ちて、燃え始めた時、叔父も叔母もさすがにびくつき。隣家が燃え上がった炎がもう少しで我が家に燃え移りそう。赤い炎がメラメラと誘惑している。ただ神頼みせんばかりだ。退避の人の足音も遠の

いたころ、前の稲田は雨のごとく機銃の弾丸が降る。鉄かぶとをかぶった二、三の男がオーイオーイと呼んでいる。ハッと白い物に驚いて後ろを見れば、どこから迷い込んで来たのか、長い縄の切れ首にした子やぎ一匹、メエメエと鳴いていて物寂しそう。炎が炎々と反映して子やぎの背が真っ赤に見える。「あやぎよ。お前とわたしは果たしてこの空襲の終わるまで生きていられるだろうか？ ああ神

様よ」。折よく夕立となり雨が降ってきた。燃え広がった火の手がいっしょににぶり始めて行った。飛行機は逃げ、爆弾は落ちなくなった。雨がザザア降っているばかりである。ああそれは一時間にも満たない数十分かの出来事だった。やぎはもう見えなかった。生きただろうか？ 向かい側の丸戸製糸が炎々と燃え上がった。家族一同無事、庭内に焼夷弾の破片少々、家屋に破損はなかった。

空襲、そして最後の二等兵



天川原町
居城 昇 59

召集令状を受け取り身辺整理も一段落したあの日、二十年八月五日の夜はなにかそれらしい風聞も流れていた。母は女の子三人の手を引き、幼児を背負って夕刻から六供方面へ避難していた。

家では父と私と中島航空技術学校生徒の弟と三人で、味気ない夕食をとったような気がする。薄暗い管制灯の下で本を読んでいたが、突然、B29の金属音と異様な周囲の明るさと燃焼音に驚いて家を飛び出す。隣接の家に数発の焼夷弾が二階を突き抜けて座敷の真ん中で火を吹いている。家の中はたちまちに火の海が広がってゆく。露地から中島飛行機前橋工場まで、敵機は数十機で前橋市に襲いかかって来ました。最初に焼夷弾が投下されたのは、岩神町の

十一時ごろだったろうか兄さんが玄関を開けた。来た来たよかったですと皆大声を上げた。でも姉は来なかった。もう寝ることもできない来るかと朝まで待ったが来ない。もう死んでしまったかな、それともけがで動けないのか見当がつかない。昼かよと前だった姉がやつれた顔をやってと歩いて来た。アッよかったと皆大喜びでした。姉は細井の方へ逃げたから行く先で空襲に遭い逃げ場がないので川が側にあつたので川に沈んでいたと言います。姉は先祖の位はだけはと胸に抱いて逃げたそうです。しつかり抱いて川にいと、「助けてく

戦災都市のランク

全国百十五の戦災都市の、被災人口の総人口に対する比率は次のとおりです。本市は十七番目とランクが高く、相対的に被害が多かったことがわかります。

①八王子95・5%	②福井93%	③長岡90%	④広島89%
⑤岡山88%	⑥日立81%	⑦高松80%	⑧浜松79・6%
⑨沼津77・8%	⑩甲府75・2%	⑪青森72・3%	⑫敦賀68・2%
⑬富山68%	⑭水戸66・9%	⑮桑名66・8%	⑯平65・7%
⑰前橋65%	⑱新潟64・5%	⑲宇都宮64・5%	⑳横浜64・5%

広瀬川の中で水をかぶって



西片貝町二丁目
中沢 澄安 60

昭和二十年八月五日の夜のことだった。当時、私は高崎の東部第三十八部隊にあり、教育隊に入るため外泊が許され、自宅

(旧立川町)に帰った夜が前橋空襲の日であった。父が常会長をしてため、三人で最後まで踏みとどまった。母は先に避難させたが、最後の時には二つの包みを置いて行った。ドカーンと音がして家が燃え始めたので、慌てて荷物を持って走り出した。途中で気がついていたら、父はバケツを、私はトビグチだけを持っていった。振り返ったが一面火の海。このバケツで命を救われることになろうとは、知る由もなかった。諏訪橋が渡れないため、久留万橋まで行ったがそこもダメ。二つの橋の中間にあつた小さな橋の下へ入った。胸から下は水の中。水の流れが早く、夏とはいえ深夜の水は冷たかった。顔は焼けるほどの熱さ。何度もダメかと思つたが、バケツで頭から水をかぶり、手で水を掛け合いながら数時間頑張った。幸いやけどはしなかったが、煙で目をやられ、やっと帰隊できた。

上下肢骨折、内臓破裂……



西片貝町二丁目
青木 せつ 61

お寺の西方の桑畑の中に避難しましたがどこをどう逃れたかわかりません。頭上には、B29が低空飛行で旋回して焼夷弾を落下しているのです。その爆発音のすごいこと、真昼のような音がまるで雨が降って来たように、その後機銃掃射の音、あまりの恐ろしさに生きた心地はありませんでした。B29の爆音が去り、ハッと我に返った時、この何分間がとて長く思われま

避難の先々に焼夷弾、爆弾



天川大島町二丁目
桜井常五郎 63

当時私は、今の自治会館の所にあつた、群馬県警察練習所の初任科生として入所しておりま

知事公舎、各部長公舎の警備を命ぜられました。八月五日の夜も発令と同時に各隊員は、それぞれの部署に出動しました。私は他の一名と、県庁裏にあつた経済第二部長公舎に出動しました。部長さんは、二人の子供のことを「頼みますよ」と言っていて、今度利根川原に爆弾が投下されて来ました。やむをえず裏の県庁土手に出来ていた防空壕の中に二人の子供を連れ避難しました。そのうちに市内全般が火の海となつてしまいました。二時間ぐらいたつたら空襲も終わりましたので練習所に戻って来ました。夜が明けても知事公舎へ行った二人が戻って来ないので爆死したのかもしれないという話が出たのですが、お昼ごろになつて帰って来まして安心しました。

昼近くなつて帰ってきた姉



小屋原町
井野ふくよ 60

十一時ごろだったろうか兄さんが玄関を開けた。来た来たよかったですと皆大声を上げた。でも姉は来なかった。もう寝ることもできない来るかと朝まで待ったが来ない。もう死んでしまったかな、それともけがで動けないのか見当がつかない。昼かよと前だった姉がやつれた顔をやってと歩いて来た。アッよかったと皆大喜びでした。姉は細井の方へ逃げたから行く先で空襲に遭い逃げ場がないので川が側にあつたので川に沈んでいたと言います。姉は先祖の位はだけはと胸に抱いて逃げたそうです。しつかり抱いて川にいと、「助けてく

あちこちで悲鳴とうめき声



若宮町二丁目
中村 きく 63

昭和二十年八月五日夜、警戒警報発令と同時に前橋中のサイレンが鳴り響き、東空方面よりB29という爆撃機の大編隊が轟撃開始一瞬にして火の手があちこちらに上がった。すごい高い黒煙から真っ赤に夜空を焦がす……多くは焼夷弾で無差別燃撃であつた。日ごろ消火訓練はしていたがどうにもならない。当時はどこでも手もみのポンプでバケツリレーのお粗末の状態であつた……家にも八十歳の祖母がいて、私が背負い母と三人で避難することにした。道路に出た途端ハニック状態で、大きな

荷物を背負った人、赤ちゃんを背負い両手に泣く幼児の手をしつかり引いていく人、病人を連れていく人、当時はおおかた男性は戦場で家には女性が多かつたように思う。逃げ惑う道中も前に進めず、田園地帯目指して避難し、私たちもたんの片隅で情勢をみていた。焼夷弾の直撃を受けて苦痛の声を救護班を呼ぶ人、足もと悪く川に落ちる人、あちこちで悲鳴とうめき声の渦であつた。一方、中心地はまだまだ敵機の爆撃で爆弾投下の雨のごとくで、夜空は真っ赤の火の海であつた。爆音のすさまじさ。やがて敵機も去り、東の空が明け始めた。皆、三々五々家に戻った。我が家は全焼してゐた。当時はすべて自力でやらないと生きていけない。回りの電柱はへし折れ硝煙のにおいが漂う。人は皆ぼう然としていた。炎暑と空腹の日が始まったのである。

伝える

私の体験

昭和二十年八月五日の夜のことだった。当時、私は高崎の東部第三十八部隊にあり、教育隊に入るため外泊が許され、自宅

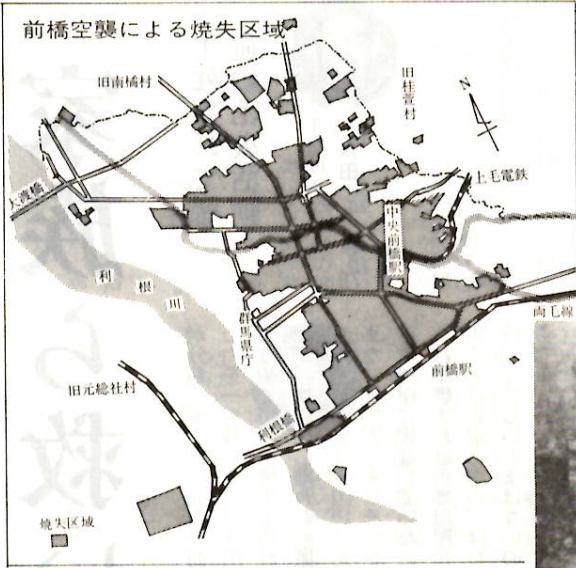
お寺の西方の桑畑の中に避難しましたがどこをどう逃れたかわかりません。頭上には、B29が低空飛行で旋回して焼夷弾を落下しているのです。その爆発音のすごいこと、真昼のような音がまるで雨が降って来たように、その後機銃掃射の音、あまりの恐ろしさに生きた心地はありませんでした。B29の爆音が去り、ハッと我に返った時、この何分間がとて長く思われま



南から豎町(千代田町一丁目)方面を望む

若い世代に 前橋空襲

逃げまどう人波の中で



「前橋市史」第5巻より



連雀町通り付近(本町一丁目)

敷島小学校で の負傷者看護

南町四丁目
石関徳太郎 75
団体職員

私は二十一年六月一日に東京帝国大学から前橋医学専門学校へ皮膚科泌尿器科放射線科技術師学校講師併任で参りました。前橋空襲の時は北群馬郡の吉岡にいて、自転車で駆けつけたのですが、既に平家建ての病棟三棟が燃え落ちるところで、手遅れの状態でした。とくに警防指導部長で四年間鍛えた腕を奮い起こし、近くにいた軍人と消防団とで二階建て外来病棟渡り廊下の東と西の二か所を破壊して延焼を食い止め、空襲警報の解除とともに敷島小学校へ負傷者を運びました。それから一か月、毎日毎日包帯を交換して上げました。これはどこからの命令でなく、指導部長で鍛えた体、長期訓練のためものがそうさせたのでした。

助けて助けてと口走りながら私の裏の三軒がらの道をいつぱいになるほどの人の群れ、当時私の家は大きなわらわらぎの家で、東はたんぼなので、その怒のような人の群れが流れ込むように入ってきたのです。お産をしてまだ日の浅い人もおりました。布団を敷いて休ませてやりました。一夜を明かし一人去り二人去り、焼け跡へ帰ったのでした。空襲後現場へ行きまして、一面焼け野と化し、身寄りのない人たちは焼けトタンで人間がやっともぐり込むぐらいのバラックを建てて、敷物もなく食物はもちろん着の身着のまま

助け求めて怒 とうのように

東片貝町
三森テル子 66
無職

八月五日夜、私はいつものように食事の後片付けをし洗濯を済ませ、家族は皆床に入っておりました。私はなにか胸騒ぎがして寝る気になれず、上がりはなにか腰を下ろしてふと表を見ると障子が真っ赤に見えたのです。火事かと思っ外に飛び出しました。前橋方面が一面火の海でした。二十分ぐらいたった時、

助けて助けてと口走りながら私の裏の三軒がらの道をいつぱいになるほどの人の群れ、当時私の家は大きなわらわらぎの家で、東はたんぼなので、その怒のような人の群れが流れ込むように入ってきたのです。お産をしてまだ日の浅い人もおりました。布団を敷いて休ませてやりました。一夜を明かし一人去り二人去り、焼け跡へ帰ったのでした。空襲後現場へ行きまして、一面焼け野と化し、身寄りのない人たちは焼けトタンで人間がやっともぐり込むぐらいのバラックを建てて、敷物もなく食物はもちろん着の身着のまま

でした。

悲しかったことは、毎日毎日きれいに、しかも念入りに消毒して真新しい包帯に換えるのに、次々と死んで行ってしまうことと。頭から足先までペロペロにとけた患者の悲痛なウメキ声を聞きながら、なんでこんな目に会わなければならぬのかと思うと、悔やしいやら悲しいやら、戦争が憎くて恨み骨髄に達し自然に涙が出て、私も石原教授も八人の看護実習生も毎日泣きながらやりました。

私たちが一番困ったのはハエがものすごく多いことでした。真心込めてきれいに消毒しても、翌日に包帯交換する時は大きなウジが体中からポロポロ出てきます。頭から足先まで焼夷弾で焼かれた患者が、最後までウジに苦しめられ次々に死んで行つた一か月は、自分の死よりもつらいものでした。

被爆者遺族の会



記念碑の母子像

前橋市戦災被爆者遺族の会（九條成英会長、会員百十人）は、戦災で家族を亡くした人々の集いで、四十一年に発足しました。

知ってほしい 戦争の悲しさ

川原町
吉田 文枝 66
主婦

我が家は、戦後市に入った敷島公園の北にある町です。飛行機が飛来とともにフワフワリと前橋の空に落ちて行つた照明弾が、夜空にとても美しく輝いていました。現在なら子供など喜んでるところであるが、その夜初めて、空襲のために後続の飛行機に前橋の位置を教える照明



なのだと知り、慌てて防空壕の中に逃げ込みました。間もなく爆音とともに爆弾投下が始まりました。大きな地響きに、この防空壕の上にも落ちたら……と恐怖で生きた心地もありませんでした。どのくらいの時間だったでしょう、幾分爆音も小さくなったので父と一緒に出て見ると残りの爆弾を重いとみてか利根川に落ちて行くところでした。前橋の空は赤々と燃えている最中でした。悲しくて涙が自然とほろほろと出てくるのです。我が家にも前橋の市内から東京や富山市から疎開の人たちが来ていて家も防空壕も超満員でした。安否を気遣って見に行くというのを押さえて明日に託しましたが皆寝ることもせず赤く燃えている前橋の空を見つめるのみでした。

焼かれ、食べる物も着る物も無く、命だけがやっとなつたのです。夜になると寝る所さえ無く、今思えば本当によく生きていられたと思います。

犠牲者、遺族 の方々を思う

西片貝町三丁目
石田寿以子 63
主婦

戦争と空襲、この二つの言葉は私にとって今もなおこびりついて離れません。忘れもしない八月五日、前橋大空襲に覆われ一面の焼け野原と化しました。振り返りますればもう四十年、私は二十三歳の青春時代でした。前橋へ北へ離れた山村地帯に七人兄弟の末に生まれ、兄は最初の昭和十二年支那事変以来、召集令で、将校で御国に御奉公、母と私、幼い子供、それに番頭さんもおりました。毎日毎日空襲空襲で家におられず、駆け回る毎日でした。でも番頭さんのお陰で、せめての救いでした。仕事は手に付かず、こんな寂しい毎日、生きた心地はありません。

り災四世帯が しばらく居住

北代田町
藤井 保美 65
農業

五日の晩は暑く静かであった。夕食を終えて涼みに庭へ出て夜空を仰ぐ。突然ラジオのブザーが鳴って空襲警報発令。敵B29大編隊が鹿島灘を通過し前橋方面へ向かうがごとし。四方にサイレン・半鐘の音がわき起こる。

養蚕農家造りから二階建ての我が家には親せき知人の疎開の荷物や勤務先男子附属小のオルガンなど、庭先の土蔵には防衛軍の医薬品がぎっしりと積み込まれていた。急いで大切な家財道具を庭に出しおけに水をかけ込む。近郊の軍の探照灯が夜空を照射して敵機を探す。突然、見えない敵機より照明

んでした。それ以後十日を経た八月十五日、なんとラジオで天皇陛下のあの無条件降伏のお言葉を聞き、感無量となり終戦となりました。支那事変から大東亜戦争と足かけ九年若き人生をお国に御奉公、亡くなられた方々がいらっしゃいました。本当に気がいっぱいでした。本当に気がいっぱいでした。でも私は女性として生まれ、戦争の恐怖を味わっただけで六十歳を超えた今日、元気で生き続けて来られたのはみなさんのおかげです。遺族の方々に、いつもいつも頭の下がる思いでした。国民のみなさんが、勝つまでは勝つまではの言葉をお胸にしまつて生き抜いて来たことと、この戦争の中をこの空襲の中を通り抜けて今日まで来られた方々は、天運に恵まれたいと思います。四十年後の今日前橋もすっかり発展しました。遺族の方々に感謝しつつ、この前橋に在住できることを幸いに思います。

弾が点々と落とされ真昼のように明るくなり、人・建物はおろか一本一草に至るまで照らし出される。これは危ないといふ（五五、母（五五）、妻（二二）、長女（二二）を土蔵の中に避難させる。二階の小窓から外をうかがうと南西方面に焼夷弾が落とされて火の手が上がる。ごう音とともに敵機が頭上を飛び去るとさく裂音がして焼夷弾が無数に落ちて来た。東の家も西の家も裏の方面一面に火の海になった。煙で苦しくなったので家族を東の方面の白川方面に、燃えている間を縫って連れ出した。水田にも焼夷弾が散布されて妖火（ようか）のように燃えていた。引き返して裏の竹やぶの焼夷弾を消した。幸い我が家は残った。大雨が降った。眠らずに朝が来た。

爆弾で水田に 池のような穴



江田町
小野里照親 81
無職

防空壕を掘ってもすぐ水が浸み出てた。田にたないものだから、屋敷から道一筋の所に一アールほどの桑畑がありむしろやごさを敷いて身を潜ませていた。焼夷弾がヒュルヒュルと燃えながら不気味な音を立てて落ちてくるのを身を縮ませて見ていると、今にも家へ落ちて火

事になるのではないかと、恐怖に震えていた。地上を昼より明るく照らすような照明弾は宙に浮かんでなかなか消えぬのも不安を一層助長するのだった。明くる日自分の田や畑を回ってみて驚いた。古市分和尙塚のたんに爆弾か？、五坪ぐらいの大きな穴が開いていて田植えの済んだばかりの田が池のようになっていた。六日の午後だったと思う。義弟の家や友人宅を見舞いにくすぶり続ける街へ出かける。幸い焼けた家もなくホッとしたが、友人の一人の家が向町の橋林寺の西にあり、橋林寺

にたくさんのお参り者があつた。真黒に焦げた無残な十五、六体の頭をそろえて並べられてあつた。遺体に向かって手を合わせ唱名を唱え逃げるようにそこを立ち去つたのであつた。もつとたくさん死者が集められていた所があるのことであつたが、又聞きにても耳を覆いたくなるような話なので思ひ出せない。繁華街は焼け野原になつていてわずかに土蔵やコンクリート造りの家の焼けただれたのが建っているのみである。この状態で、また前橋が復活す

体ぬらしては 市役所を守る



表町二丁目
小山菊五郎 80
大工

その日は朝から快晴でした。夕方まで何回となく警報が出て、私は五分団長の命令で旧市役所の警備に当たりました。二十人程の人がいました。午後十時ごろ突然空襲警報が出ました。B29が前橋の空へ飛んで来ました。

二十数機がすごい音とともに遠い空からの照明弾と焼夷弾や爆弾の投下音が雨のよう、白昼のようでした。市役所へ投下され炎上した焼夷弾は、池の中に投げ入れて消しました。私は川の中に入って体をぬらすことの繰り返しでした。敵機は退散した。最後まで務めた人は三人でした。朝五時ごろでした。急に家族のことが心配になり、やけどした体をかきながら歩いて本町の方向へ出て見ると、市内はほとんど燃えて、残ったのは土蔵と群衆の堅町支店だけの

ようでした。煙の中へ歩き私の家へ帰る途中にところどころで死んだ人がたくさんいました。目だけ白く顔は真黒でした。やつの思いで旧中川町の家に帰りました。家族を心配しながらその場で倒れて寝てしまひ、何時間ぐらい寝たのか、子供の声がありました。『だれか死んでいるよ』の声でした。やつと気がつきました。家族がそこにはいません。無事で良かった。やけどの手当てを日赤病院でしていただきました。その夜は、焼け野原で七人頭を並べて、星空を見ながら寝たのでした。

悲鳴上げて逃 げ回る人の波



城東町四丁目
出沢 守司 78
無職

各所に火災が発生し悲鳴を上げて逃げ回る人の波、早く市外に逃げるように怒号した。瞬時にして全市は猛火に包まれ炎は天を焦がした。私は班長のため踏みとどまり、自宅付近の警備についた。近くに数本の焼夷弾が落下爆発し、同時に火の玉が十数四方に飛び散り、火災が起

して銃弾の下をくぐつたが上から降ってくる爆弾は初めてなので生きた心地はなかった。敵機も去り夜も明けそめて人の顔も見えないようになった。どの顔も薄黒く目だけが光っていた。明るくなつて目映つたのは焼け野原だった。電柱は全部焼け折れ、電線はくもの巣のように地上にはつて道路も歩行できなかつた。退避した人々もボツボツ降り、自分の家の焼け跡にボンヤリ立ちすくんでいた。本町の坂上に白壁の土蔵がボツンと見えた。真っ黒に焼けただれた死体があちらこちらに横たわり、男女の区別もつかぬほどだった。今の城東町三丁目の陸橋付近に製材所の空き地があり、黒焦げの死体が山のように積み重なつていた。このむごたらしさは筆舌に表すことはできない。悪夢の一夜は去つた。今後は絶対に戦争を繰り返してはならない。

家族ら救い我が街守る

生死忘れて懸命の消火活動



小神明町
角田 勇 76
農業

土蔵、母屋、物置が全部直撃を受けた。もはや最後と思ひ家族全員防空壕から呼び出し北方の安全地帯に退避するよう指示した。この時私はもう人間ではない阿修羅（あしゅら）となつていたのである。我が身の危険とか生とか死とかいうことは一切感じない一個の物体となり、まず母屋に入った無数の焼夷弾

が分裂し家の中一面火の海だったのを一つ残らずはじき出し、ようやく母屋の焼失を免れたのだが、次に少し離れた物置の屋根に火の手が上がり、その間にまた一棟物置がありそれが連続的に母屋に接続していたので、これが燃えれば当然母屋に延焼することは必定的と思ひ、はしごを持つてくるいとまはないので、すぐ前に少し大きな桃の木があり、その下に小枝がわがわが積んであった。その中に焼夷弾が燃えていた中へ誤って右足を突っ込んでしまった。幸い地下足袋を履いていた。油脂焼夷弾は決してこすつても消えないので

足の火を消すことは後回しにして、まず屋根の火を消すことが先決と思ひ棟にはい上がり火を消そうとした。わら屋根の棟は針金と縄で堅固に結わえてあるので素手では全然どうにもならない。万事休す、もう消す事はできない、もはやこれまで、後は母屋への延焼を防ぐより外なにと考えた。かろうじて母屋の焼失を免れ、ようやく我に返つて付近の汚水だめに足をモロに突っ込んで消した。アンモニアのお陰で深さ三分というやけども、約一か月でつえを突いて歩けるようになった。やがて東の空が明るくなった。家族全員無事戻ってきた。家とともに焼死したはずの私も火の中から転がり出た。まったく奇跡的にも生き残った。

負傷者で足の 踏み場もなく



文京町三丁目
高瀬 定治 75
無職

前橋郵便局から昭和十五年に従軍し、北京の野戦郵便本部の人事を担当し、十八年に帰還した。厚生主事に任命され防衛責任者となり、逐次重要書類や物品は郊外へ疎開した。東京の下谷局長として空襲を体験した羽根田氏が、前橋空襲があるから、万全の対策が必要だと言われた。防衛宿直者を二倍にし、夕食のため自宅へ帰らせた。本局は木造建築なので、協議室を鉄筋の

電話局に移した。午後八時ごろ東の空から、爆音が聞こえてきた。B29が前橋空襲だ。大編隊の爆撃機が、焼夷弾を投下し、火花が揚がった時のように、空は明るくなった。あちこちに火の手が上がり、全市に広がった。本局と東電、その付近一帯は焼け、電話局の東に爆弾が落ちて電話回線は切断され、通話は不能となった。交換手は悲鳴を上げてうたえている。皆を落ち着かせ、利根川の川原まで防

空すきんをかぶり誘導、全員無事避難させた。私は局に戻つたが、ただぼう然と悲惨な状況を見ていた。やがて夕方になって夜が明けても火煙はあちこちに上がり、市内は見渡す限り焼け野原、土蔵だけは白い壁を見せつけて残っていた。通信局へ連絡のため、高崎局まで自転車で行き被害状況を報告し帰局した。その後、局員の様子はどうかと、数島小学校へ行つたが、講堂には負傷者や火傷した人で、足の踏み場もなく、うめき声や家族を呼ぶ悲痛の叫びが、筆舌では言い表せないほどであった。戦争の惨めさを二度と繰り返してはならないと若い人たちに苦言を呈した。

夫の死乗り越え 七人の子と



城東町二丁目
佐藤よしの 80
無職

空襲警報と同時に次々と焼夷弾が落ちて町は火の海となり、私は子供たちを連れて農林学校の裏の佐久間川の橋の下に避難しました。川の中でずぶぬれになりました。川の中でずぶぬれになるのを待つて家に帰ると、主人は見当たりません。心配していたところ、夜が明けて見ると家の近くで爆死しているのが見つかりました。鉄かぶとをかぶつて死んでいました。あまりのことではだばう然とするだけで涙も出ません。働き手の主人は死に、何の保障もなく、子供は長男二十歳、次男十八歳、三男十歳、長女女子校二年生、次女国民学校五年生、三女一年生の

七人。家は爆弾でつぶされ、家の回りは立入禁止と縄張りになつていて、家に入ることもできずお勝手用具も何もありません。食物にも衣類にも困りました。材木小屋に寝ましたが電気もなく水も近所でもらい水、それはそれは大変でした。いっその子供と死にたいと考えたことも何回もありました。しかし、十二月になつて知人から製材所を始め仕事で子供を使つて一生懸命働きました。お陰でどうにか生活できるようになりました。翌年四月五日に主人の葬式も行い、ようやくほっとしました。今になつて考えると四十年、夢のようです。私も八十になり、今、子供、孫、ひ孫たち一族四十人。毎年家族会を盛大に開いて私を励ましてくれます。主人に感謝して私の供養を私の務めとしています。母子会、老人会長とできるかぎり奉仕したい気持ちでいっぱいです。

戦災と復興



戦災と復興
戦後十八年を経て復興をなしとげた時点で、戦災の状況

市では昭和三十九年に、市戦災復興誌編集委員会編「戦災と復興」を発行しました。この本は、戦後十八年を経て復興をなしとげた時点で、戦災の状況、終戦前後の社会状況など、特に空襲の記録は詳細です。

伝える 私の体験

前橋郵便局から昭和十五年に従軍し、北京の野戦郵便本部の人事を担当し、十八年に帰還した。厚生主事に任命され防衛責任者となり、逐次重要書類や物品は郊外へ疎開した。東京の下谷局長として空襲を体験した羽根田氏が、前橋空襲があるから、万全の対策が必要だと言われた。防衛宿直者を二倍にし、夕食のため自宅へ帰らせた。本局は木造建築なので、協議室を鉄筋の



郵便局付近から南西を望む

乳児背負い子 供の手を引き



日吉町二丁目
田中 一郎 85 無職

東部軍管区情報と二声三声、敵機B29が数十機鹿島灘沖を北上中と、何回かラジオは報じた。やがて北関東方面へ左折進行中となった。夜八時半ごろだった。

私の家は、満一年の双子男がいた。次女十一歳と五人家族がいた。次女十一歳と五人家族死ぬような時は家族全員と覚悟して防空壕にいた。長女は学徒動員で伊勢航空にいた。やがて向町方面から逃れてきた人たちが壕の前を通る時、早く逃げなさいと言われた。私たちの覚悟に緩みが出た。

幼児を一人づつ背負い子供の手を引き横地病院の四つ角の門の下で一休み、迷ったが岩神方面へと思いついた瞬間大きな金物の音、一足違いで災害を免れたが、後で焼夷弾の破片であつたと聞いた。

柳原の土手で近所の方々の声を聞いた時はうれしかった。やつぱり逃げてきてよかったと思

銃撃で赤ちゃ んが吹き飛ぶ



下小出町二丁目
北爪美登里 81 無職

私はそのころ助産婦として働いておりました。八月五日の午後のことでした。明日はお七夜という時にご主人いわく「もち米五升買っておきましたから、明日は近所の人にお祝いにい

若い世代に 前橋空襲

を敷き奥さんと赤ちゃんを乗せて逃げたのだそうです。17号線を北へ、国領通りだと言いました。旋回してきた飛行機の射撃に会いましたが、弾は幸いにもヤカーの隅に当たりました。その反動で跳ね上がった瞬間に奥さんの抱いていた赤ちゃんは、布団ごとたんぼの中に三間も向こうに落ちたそうです。夢中で拾い上げ走り走り実家にたどり着いたそうです。取るものも取りあえず布団の中の赤ちゃんを見ましたら生きており大喜びしたことを話してくれました。

公園にうづく まっていた夫



千代田町二丁目
平田 いく 86 無職

生まれは明治三十二年六月二十五日。当時、主人は病気で家にいました。子供は二人。長男が前中を四年で卒業させられ測候所（前橋氣象台）に行っていました。次男は国民学校でした。私は不動銀行に務めていたのです。

握り飯を背に して市街地へ



城東町二丁目
小沼弥藤次 88 無職

戦災の時、私と主人と次男が家にいました。長男は勤務中でした。警戒警報があつたので家を暗くして水を張って空襲に備えていたら、照明弾と地上からの光で回りが明るくなってき

桑園に避難し 多くの死傷者



平和町二丁目
鈴木福三郎 90 会社社長

大東亜戦争も沖縄が陥落し本土決戦が迫るという緊迫する時、私は前橋市会議員、東吾神町区長警防団部長として活動して

八月五日夜九時警戒警報が発令。今日は、幸い私は非番のため在宅。妻と共に防空壕に待避十時半B29の爆音が聞こえる間もなく利根川上空に照明弾投下。まるで真昼のような明るさ。間髪入れず岩神町共愛女学校前に焼夷弾投下。ものすごい爆発音。

つぶさに書き 残すのは使命



住吉町二丁目
田村 茂平 95 商業

戦争を知らない現代の人たちに私は戦争体験者として当時のせいぜい惨な思い出を掘り起こして、想像を超える悲惨な実態をつぶさに書き残すことが自分の使命と考へたので、無字を顧みずペンを執った。恐怖の夜空襲から既に四十年の歳月が流れたが、その残酷な縮図は今も脳裏に強く焼き付いている。市の外部の一部を残す八割が焦土に



広瀬川から妙安寺方面を望む

樹木を盾にし て爆撃避ける



大利根町二丁目
小池 金次 84 無職

私は戦時中県の公務員として銃後を守っておつたので、戦地に奉公なさった人たちに比べれば誠に恵まれた者と言わざるを得ません。それでも若干の苦い体験は忘れることができません

ので、その一部前橋空襲のことを記すことにしました。当時私は神明町に住んでいました。先に長女は吾妻に、次女は群馬に疎開させておいたので、乳飲み子の三女は家内に背負わせ小出方面に避難させ、私は長男（前中一年生）と家を守って

がすれば東側に、あたかもセミのごとく長男を抱きかかえて木にはり付き焼夷弾をよけた。今の競輪場はアカシヤの密林とどぶ川で、その中を右往左往する市民子供の泣き叫ぶ有様はまったく悲惨であった。翌六日午前0時ごろ空襲はやみ、家に帰ってみれば家は丸焼けであった。十時ごろ家内は無事に戻つたので、私は防空壕を整理してひとまず豊岡の義兄の家に家内子供を連れて徒歩でたどり着き、翌

日は牛車で家内の実家室田を一応宿とした。しかし県の仕事もあるし長男の通学の関係もあるので、高崎市寺尾の荒地地事務の物置小屋に一時しのぎとして住まいしそより県庁に通つた。数日後乗附の農家の牛小屋に板をはりそこに住まいし、そこも十か月ぐらいたって洪川のある社宅を借りることができた。八月六日広島に、九日長崎に新型爆弾が落ち、ついに十五日に敗戦による終戦となつたのである。

一瞬のうち五間道路の私の家の前後、隣の工業試験場、工業学校等に二弾三弾と投下。地軸を動かす爆発音と同時に火の海となり真昼のよう。私は妻とともに壕を飛び出し屋敷内の焼夷弾を消した。周囲が猛火に包まれていたが弾撃の危険を感じたので近くの墓の側溝に避難し、爆撃が遠のいたので引き返し近所の火災の家の消火に協力した。

自分の家は焼失していた。戦災を受け翌日からは防空壕に住まい。隣接町村の御厚志による炊き出し握り飯等を被災者に配るなど、指揮するのは区長の大きな仕事。妻や事務員を督促して活動した。空襲は、後でわかつたことだが近所の多数の人々が警報発令と同時に蚤糸試験場の桑園に避難したが多数の死傷者が出来た。市長の堀さんは、市議会を召集、被災者にまず住宅斡旋その他救済法を議決した。

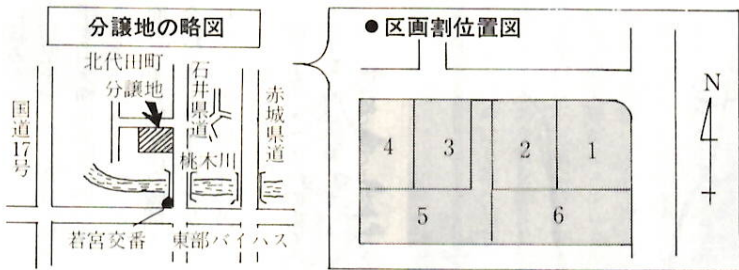
ものであるとは考えていなかった。八月五日の夜、灯火管制のやみを破ってサイレンがけたたましく鳴った。予期した空襲である。大編隊は市の上空を旋回しながら照明弾を投下し、全市を真昼のような明るさの中に浮き彫りにした。そして無差別に投下した焼夷弾はさく裂、火花を散らしながら密集家屋を破壊、焼失、全市を火の海にした。紅蓮（ぐれん）の炎は夜空を染め地上の業火は強風にあらわれ渦を巻いている。安全地帯を求めて無我夢中で逃げ惑う老若男女の市民は、爆弾や機銃掃射におびえながら、猛火の中を無事を祈りつつ街を離れて田舎へ逃げた。それを追って低空掃射で大半の人命を奪った。この空襲で肉親を失い悲しい運命に慟（なげ）う（こ）した人たちの涙は永久に涸（か）れないだろう。幾千万人の尊い生命を犠牲にした愚劣な戦争を反省して永久に地上に平和の続くことを祈ります。

6区画の土地を分譲

北代田町

サンハウス建設用地 申し込みは今月12日(月)まで

市では、市民の強い持ち家志向を受けて、サンハウス（都市型戸建て住宅）建設のための土地を分譲します。この事業は、敷地の合理的な有効利用によってよい居住環境を生み出すことを目的に行うものです。



□土地分譲のあらまし
所在地 北代田町字道西四四七
一 用途地 準工業地域
分譲区画数 六区画 区画の面積 百七十六・六平方メートル
百六十二・四平方メートル
分譲価格 千五百八十二万二千二百三十四円五千元 分譲の条件
①隣戸間相互の環境保全のため住宅建設は五タイプを参考とする
②隣戸間の塀の高さは一・二メートル未満
□申し込み資格
①設計にあたる希望が生まれます
②三面開放住宅と露地を組み合わせた都市型戸建て住宅です
③露地の活用は美しい家並みと土地の効率的利用を生み出し、避難路としても利用できます
④三面開放により隣戸間、居住間とも、プライバシーの保全と日照、通風、採光など居住環境が保たれます
⑤露地を通して前後の庭と中庭が一続きになり庭を広く感じさせます
⑥戸別の駐車スペースが設けられます
⑦住宅金融公庫、厚生年金、県マイホーム建設資金、市勤労者住宅資金などの資金融資が受けられます。

申し込み資格のある人は次の各項をすべて備えている人です。
①市内在住または在勤者で、宅地や持ち家がなく自ら居住する住宅を必要としている
②同居親族（親子、配偶者、婚約者、そのほか永続して同居できる親族）がいて、③日本国籍がある
④月収（年収の十二分の一）が住宅金融公庫の収入基準以上あり、住宅建設は五タイプを参考とする
⑤住民税を完納している
⑥土地代金を10月15日(火)までに一括納入できる。
□申し込みの手続き
八月一日(木)から九月二十日(金)までの五十一日間、シートベルト着用推進運動が実施されます。ハンドルの握ったら必ずシートベルトを締めましょう。

シートベルトを必ず着用しよう

①衝突時の衝撃が軽減する
②車外放出を防げる
③正しい運転姿勢が保てる
④運転による疲労が軽減する
⑤安全運転意識の向上につながる



安全運転意識の向上にも

●正しい確実に着用
①シートを倒さずに深く腰かけて必ず腰骨の位置で締める
②よじれを直し、衝撃力をベルト全面で受けるようにする
③カチツと音がするまでバックルを確実に差し込む
●子供は補助具を使って
背の低い子供が使用すると、ベルトが顔や首に当たったりして危険です。幼児を抱く場合には、幼児が車の内面と大人に挟まれ、やはり危険です。子供の乗用車が時速六十キロで進行

●着用していただくと……
最近五年間の死亡事故のうち、シートベルトをしていなかった場合の損傷部分を調べると、頭部四九・八％、首の部分二〇・〇％、胸部一七・一％となっており、シートベルトをしていない人は大半の人は助かったのではないかと考えられます。実際には、乗用車が時速六十キロで進行



シンプルで明るいサンハウスの家並み 芳賀団地

明るい選挙のポスター募集

普通選挙法六十周年、婦人参政権四十周年を迎え、明るい選挙啓発ポスターを募集します。内容 明るい選挙を推進する内容を表す作品 応募資格 小・中・高校生 応募期限 四月二十五日(土)午後五時五十五分まで 注意 ①作品の裏に、学校名・学年・氏名・性別を記入 ②作品はお返しできません ③入賞作品は明るい選挙の推進のために利用させていただきます 展示 市再開発課 内線 3836

あなたのレジャー

年一回発行の市のグラフ広報誌「グラフまえばし」の第七号は、十一月十五日付発行を目指して準備を進めています。趣味やスポーツなど、ひと味違った楽しみをお持ちの方は、一報ください。『マイ・レジャー・ライフ』欄で紹介いたします。個人・グループを問いません。他薦でもけっこうです。○お問い合わせは広報文書課 内線 3525へ。

市政ラッシュ

☆ 肺がん検診の受診率
昨年十月に始めた肺がん集団検診の昨年の統計では、結核検診受診者の九・二％が受診しました。予想を上回る数字です。
☆ 15日は前橋花火大会
スターマイン、空中ナイアガラなど五千発が前橋の夜空に繰り広げる華麗な盛況。午後七時から九時、大渡橋下利根川原。

☆ 女高生ら83人が参加
二泊三日の日程で開催の本年度高校生ボランティアスクールは、施設訪問に加え新たに家庭奉仕実習も取り入れました。



☆ 各地で清掃活動盛ん
二十日に東芝労組が新前橋駅周辺、二十一日に地域住民や団体が桃木川周辺、前橋地区同盟が前橋公園をクリーン奉仕。

☆ 明治時代の教育資料
桂置小でこのほど明治期の沿革を記録した文書が発見されました。校舎の図、教育方法や校医の記述など貴重な資料です。



都市計画

縦覧できます

●道路・公園・緑地の計画

都市計画道路、公園、緑地の都市計画案がまとまりましたので、次のとおり縦覧を行います。

□計画案の概要

道路—北部第三土地区画整理事業区域内に次の3路線を追加するものです。

名称	起点	終点	延長	幅員
3.6.74荒牧町東線	荒牧町伊勢東	荒牧町字舟戸	約800m	10m
3.6.75荒牧町西線	荒牧町字上宿	荒牧町字舟戸前	約820m	10m
7.6.7南橋中北通線	荒牧町字宿前	荒牧町字東原	約680m	10m

公園—東大室町、西大室町に位置し、五料沼、二子山古墳群を中心とし自然環境の保存と活用、歴史的要素を取り入れた市民の憩いの場として利用できる総合公園を計画するもので、面積は約36.9haです。名称は5.5.2.大室公園です。

緑地—若宮町三丁目の第10号若宮町緑地を、第10号才川緑地に名称を改め、区域も一部変更します。

□縦覧の期間

8月3日(土)～16日(金)、午前8時30分～午後5時

□縦覧場所

都市計画課(市役所9階)、「公園」については県都市計画課でも縦覧できます。

□意見書の提出

この都市計画案についてご意見のある場合は、縦覧期間満了の日までに、「公園」については県知事あてに、「道路」「緑地」については市長あてに意見書を提出することができます。

○…お問い合わせは都市計画課☎内線3903へ。

●下水道の計画

市街化区域と流域下水道(利根川上流流域下水道県央処理区)の見直しによる変更に伴い、次のとおり縦覧を行います。

計画の種類・名称—前橋都市計画下水道・前橋公共下水道 都市計画変更の区域—市街化区域4,282haと芳賀団地91haを含めた4,373ha 縦覧期間—8月3日(土)～16日(金)、午前8時30分～午後5時 縦覧場所—水道局下水道建設課 その他—この変更案に意見のある場合は、縦覧期間中に市へ意見書を提出することができます。

○…お問い合わせは水道局下水道課☎345511へ。

一分間の黙とうを

広島原爆記念日 8月6日(火)

午前8時15分 長崎原爆記念日

8月9日(金)午前11時2分 戦

没者を追悼し平和を祈念する日

8月15日(木)正午

広島原爆の犠牲者

亡くなった方のうち千八百人はいまだに親族が見つかっていません。被爆四十周年に当たる今年、市役所1階市民ロビーに名簿を掲示しますのでご覧ください。

鼻の日講演会

日時 8月11日(日)、午後6時30分～8時 会場 医療センター(朝日町四丁目) 内容 ①「香りと生活」資生堂・塩野純子さん ②「においと鼻の病気」群大講師・牧野純太郎さん 受講料 無料 問い合わせ 田中耳鼻咽喉科医院 ☎6431

休日水道工事店

8月4日(日) 管工事組合 ☎57509 8月11日(日) 前橋水道 ☎1431 8月18日(日) 真塩工業 ☎7475 8月25日(日) 福島工業 ☎6672 9月1日(日) 管工事組合 ☎7509 問い合わせ 水道局給水課 ☎5511

発生件数

前年の半分以下に

60年上半期の火災状況

消防本部では、今年一月から六月までの火災状況をまとめました。それによると、火災件数は、前年と比べて約半分に減少しています。一件当たりの平均焼損面積は九十三平方メートルでした。

●火災件数 火災の発生は四十三件。比較的少ない。前年の八十八件と比べても半分以上という結果でした。内訳は建物火災三十四件(うち住宅火災十九件)、車両火災八件、その他の火災一件でした。

●焼損面積 焼えた建物の面積は三千八百八十四平方メートルで、前年と比べて約半分に減少しています。一件当たりの平均焼損面積は九十三平方メートルでした。

●被害額 一億九千六百万円の被害ですが、前年の二億九千四百万円に比べて大幅な減少でした。それでも一日当たり約百七十万円が灰になっていることになりま

試験と講習会

●試験 日時 9月29日(日)午前9時 会場 前橋工高 種類 甲種(二種)、乙種(二種)

●講習会 消防設備士

●お問い合わせは消防本部予防課 ☎3211へ。

防火のポイント

◇上半期の教訓から 上半期の火災原因から、特に次のことに注意することが大切です。

①寝たばこやたばこの投げ捨てをしない ②子供にマッチやライターで遊ばせない ③風の強い時は火をしない ④天ぷらを揚げるときは油を離れない ⑤他人の目に付きやすい所に燃えやすい物を置かない ⑥ふろの空気を換えない

◇花火遊びは安全に 夏は子供たちに楽しみな花火の季節。正しい使用方法で安全に遊ばし

◇花火に書いてある遊び方をよく読んで必ず注意事項を守る ②花火を人や家に向けて、燃えやすい物のある場所では遊ばない ③衣服に火がつかないように注意する ④水を用意しておく ⑤吹き出し、打ち上げなどの筒物花火は途中で火が消えても筒の中をのぞかない。

納税は 明るいくらし 築くもと

二〇三三年 須田敏裕



町ぐるみで納税に協力

五十九年度市税の収納率は、納税者のご理解とご協力のおかげで、おむね良好な成績を納めることができました。しかしこれらを分析すると、ある町では一〇〇%完納、一方で九〇%以下といったところがあり、町内間の納税体制に差が出ています。

特別土地保有 税申告は今月

今月は、特別土地保有税(取得分)の申告納付月です。昨年の七月一日から、今年の六月三十日までの一年間に、市内の土地を五平方メートル以上取得した人は、八月三十一日までに申告してください。

8月の納税

◆市県民税第二期・国民健康保険税第三期 8月31日(土)まで

障害児預り所の設置をぜひ



先日、障害児を持つ若い母親から「もう一人元気がないし、主人を一週間も休ませることはできない。そのことを考えると子供

は産めない」という話を聞きました。子供を預かるのは、やはり特殊な技術を持つている方ではないと無理なようです。障害を持つ子供の親が安心して、特別な場合だけでも保育所と同じように預けられる所があつたら、どんなにすばらしいだろうとつくづく考えるのです。が、いかがでしょうか。

(池端町・斎藤みち江さん)

【お答え】

ご質問の内容からは障害の程度がわかりかねますが、児童福祉施設の中には、障害のある児童を保護するにとともに必要な知識技能を与える、精神薄弱児通園施設や、肢体不自由児を治療しながら必要な知識を与える、肢体不自由児施設への入所措置などがあります。これらは群馬県中央児童相談所(野中町)への相談がよいと存じます。

また、保育所(園)への入所については、現在一か月を単位として措置しておりますが、今後短期間でも入所ができる緊急一時保育制度を検討してまいります。

(福祉事務所)

市役所は、〒371前橋市大手町二丁目12-1 ☎24-1111です。

暑さに負けず

みんなでスポーツ

教室

★水泳へ小3・4

日時 9月2日(月)・4日(水)・5日(木)・6日(金)・9日(月)・11日(水)・12日(木)・13日(金)・18日(水)・19日(木)の合計十回、午後5時30分

7時30分 会場 温水プール
対象 市内の小3・4、初心者六十人(前年の受講者を除く)
参加費 100円(プログラム代と入場料一回四十円 申し込み 8月15日(木)までに往復ハガキに住所・氏名・年齢(学年)・学校名・電話番号を記入して保健体育課へ。一人一枚。定員を

★軟式庭球

日時 8月31日(土)、9月1日(日)・7日(土)・8日(日)、土曜午後1時30分・5時、日曜午前9時・午後4時 会場 市庭球コート
対象 市内在住・在勤・在学の家来婦人、一般(高校生以上)参加費 100円(ボール代など、講習日に納入) 申し込み 8月28日(木)までに電話で保健体育課内線4032へ、その他はテニスクラブ、ラケットは各自用意

★ゴルフ

日時 8月29日(木)・10月3日(木)毎週木曜合計六回、午前10時・正午 会場 赤城国際カントリークラブ 対象 市内在住・在勤者、三十人(全日程出席可能な人) 参加費 テキスト代八百円と一回につき二十五円(ボール代など) 申し込み 8月15日(木)までに往復ハガキに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入して保健体育課へ。定員を



今年の夏休みは泳いで真っ黒になるぞ 岩神小で

●球技

スポーツを通して子供会員の交流を図り、体力の増進と健全育成を進めることを目的に行います。

●ソフトボール

日時 8月25日(日)午前9時 会場 前橋青年の家(文京町二丁目) 競技種目 スマイルボウリング(団体戦のみ)、チーム編成 一チーム五人(一人は大人、ほか四人は学年・男女を問わない) 参加チーム数 単位

大会

子供会ごと何チームでも出場可
試合方法 トーナメント方式、スマイルボウリング競技規則により勝敗を決定 申し込み 8月17日(木)までに地区連絡協議会単位または単位子供会であつて市子育て事務局(青少年課内線4043)へ



ナイスバッティング!

★高齢者健康つくり

日時 8月20日・10月1日毎週火・木曜合計十回、午後12時・3時 会場 市民体育館 対象 55歳以上の六十人 内容 健康体操、スポーツ・テーピングを中心とした体力の維持増進を図る運動 参加費 100円 申し込み 8月8日(木)午後2時に参加費を添えて体育振興公社(市民体育館内)へ 問い合わせ 同公社 ☎0900

使用制限と休場

市民・温水プール

●市民プール
八月八日(木)は小学校泳力記録会のため五十歳以上は使用できません。二十五歳以下は、徒歩プール、スライダープールをご利用ください。
●温水プール・トレーニングセンター
八月十一日(日)は市民水泳大会のため休場します。なお、市民プールは開場していますのでご利用ください。

●ゴルフ

日時 9月5日(木)・7日(土)・8日(日)、午前8時・午後8時 会場 前橋ゴルフ場(敷島河川敷) 対象 市内在住・在勤のアマチュア、各予選日ごとに先着二百四十人 競技方法 十八ホールストロークプレー、新ベリア方式によるアンダーハンディ競技 参加費 9月5日

「ご迷惑でないように」ゲートボール

前橋ゲートボール協会では、ゲートボールの早朝練習などによって、コート付近の一般市民の方にご迷惑にならないようにと、次のような「自粛」の決議をしました。同協会では、未加盟のゲートボール団体にもこのような事柄についての理解と協力を希望しています。
▽安眠を妨げないように
一、午前七時以前の練習では①ステックヘッドに防音キ

県身体障害者スポーツ教室

60年度の参加者募集
種目 期日 水泳 9月2日(日) 陸上 8月25日・9月29日(日)



車いすバスケット

●フォークダンス

日時 8月18日(日)午後1時 会場 市民体育館 内容 流行の歌や運動会・レクリエーションで楽しく踊れる曲 対象 一般または高校生以上 申し込み 当日会場午後0時30分前。無料 問い合わせ 体育振興公社市民体育館内 ☎0900

海外農業研修に助成

農業後継者を対象に、農業先進国への研修参加者に助成金を交付します。これは農業先進国での知識や技術を修得し、帰国後も引き続き農業に従事、経営の改善や地域農業の発展に貢献すると認められる人に対して行うものです。
助成を希望する人は、農業委員会事務局(市役所7階)へ申請書を提出してください。
○お問い合わせは同事務局内線3733へ。

商売繁盛の店づくり

小売店の経営健全化を図るため①店舗改装②店舗改造③商品陳列④店舗レイアウト⑤販売促進⑥店舗経営など環境に適した店舗づくりを指導します。
期間 8月26日(月)・27日(火) 診察員 中小企業診断士・東正高さん 診断方法 診断員が店舗を訪れ、約一時間にわたって診断・指導します 申し込み 商政課内線3602へ。無料
「婦人の地位」標語募集
県では「国連婦人の10年」最終年にあたり、女性の地位と福祉の向上をテーマにした標語を募集します。
(有料)の運行を計画しています。
運行期間 8月13日(火)・16日(金) 第二課内線3964へ。
○お問い合わせは区画整理

嶺公園へ無料バス お盆とお彼岸に

市では、五十六年度から始まった天川霊園の墓地移転に伴い、お盆とお彼岸に前橋駅・嶺公園間に臨時の無料バス(群馬バス)を運行します。

嶺公園行き			
停留所名	通過予定時刻		
前橋駅	発	9:00	11:00 14:00
坂下		9:02	11:02 14:02
中央駅前		9:03	11:03 14:03
県民会館前		9:06	11:06 14:06
群大附属小前		9:08	11:08 14:08
若宮十字路		9:11	11:11 14:11
鎌倉坂		9:15	11:15 14:15
勝沢		9:18	11:18 14:18
嶺十字路		9:21	11:21 14:21
嶺公園事務所前		9:25	11:25 14:25
嶺公園	着	9:27	11:27 14:27
前橋駅行き			
嶺公園	発	10:20	12:30 15:20
前橋駅	着(予定)	10:50	13:00 15:50

市役所は、〒371前橋市大手町二丁目12-1 ☎24-1111です。



多彩な講師、熱心な市民——市民講座は毎回大人気

中央公民館 市民講座 講師決まる

9月12日(木)「成長の節目を持つ
たない子どもたち」放送大学教
授・深谷昌志さん 9月20日(金)
「伝統と現代」評論家・山本
七平さん 9月26日(木)「異常
気象と人間」気象研究家・根本
順吉さん 10月2日(木)「遠く
果てない路」女優・高田敏江さ
ん 10月9日(木)「国際化時代
を生きる」元デンマーク大使・
818へ

□学校名・テーマ
△白梅料理学院・本町一丁目△
△6975健康管理に役立つ
栄養と料理実習△林服飾編物学
院・表町一丁目△5993△

専修・各種学校で
開放講座

「これから生きる」
群大公開講座
精神的にも物質的にもより豊
かに生きてゆくための何かよい
知恵はないでしょうか。この
講座では、焦点を絞るだけ
身近なところから絞って学びます。
日時9月7日(日)10月19日(日)の毎
週土曜日、午後1時30分～4時
30分 会場群大教育学部 対
象一般百五十人 テーマこれ
から生きる——暮らしの知
恵——内容少年を知る、現
代の青少年の心理、国民性と果
民性、パソコンの使いみち、ポ
ケについて、肥満をめぐって
など 申し込み往復ハガキに
住所(電話)、氏名、年齢、性別
を記し、返信用ハガキにあて先
を明記し8月12日(日)から8月21
日(木)までに〒370前橋市荒牧町四
丁目二番地、群馬大学事務局庶
務課△21611へ 問い合わせ
せも同課

の秋流行の手あみセーター(坂
入服飾学院・城東町三丁目△3
4139)服装に合わせてコサ
ージを作る△前橋すみれ服装学
院・日吉町二丁目△4074
一枚のスカフツでおしゃれな帽
子を作る△緒形裁縫学院・朝日
町二丁目△20343夏を涼
しくくつろぎ着の製作△群馬法
律専門学校・南町二丁目△21
331暮らしの中の法律と政
治△シルバークロニクル学院・三
河町一丁目△207114ベス
トとオルゴールの御殿まり作り
△前橋ニーススタイル編物学院・
本町一丁目△27565婦人
用ブルオーバー作り△前橋文化
服装専門学校・本町二丁目△2
4715ソーイング、つけ帯
製作、染色△和洋裁女学校・大
手町二丁目△24783衣類
のリフォーム△群馬調理師専門
学校・南町三丁目△27000
夏の減塩スタミナ料理△東日本
ビジネスアカデミー・南町三丁
目△27000パソコンと遊
ぼう△北関東造形美術専門学校・
三俣町一丁目△207733デ
ザイン感覚と人生△昭和服装専
門学校・城東町三丁目△2664
84モンベと上っぱり
□受講料無料
□問い合わせ県専修学校各種
学校事務局△23030、各校

ヤング対象の8講座



勤労青少年ホームでは勤労青少年(30歳未満の
人)を対象に講座を開きます。いずれも初心者向
きです、受講して有意義な青春を送りましょう。

- 講座内容
- 写真講座——*
毎週月曜日 定員20人 材料費 2,000円
講師は上毛写真連盟 宮崎三郎さん
- 料理講座——*
毎週水曜日 水曜コース
毎週木曜日 木曜コース
いずれも定員30人 材料費10,000円
講師は高崎調理師専門学校 石黒 協さん
- 着付講座——*
毎週水曜日 定員20人 テキスト代 3,000円
講師は長沼静流 平石美智子さん
- 華道講座——*
毎週水曜日 定員20人 材料費 8,000円
講師は草月流 豊島香緒さん
- 書道講座——*
毎週木曜日 定員20人 材料費 3,000円
講師は市女高 岡庭征人さん
- 茶道講座——*
毎週木曜日 定員20人 材料費 4,000円
講師は江戸千家 大嶋宗寿さん
- 日本画講座——*
毎週金曜日 定員20人 材料費 2,000円
講師は日本画家 沢野 潔さん
- 社交ダンス講座——*
毎週金曜日 定員 男女各15人 テキスト代
2,000円
講師は戸塚保幸さん

□期間
9月から11月まで午後6時30分～8時30分(料
理は9月から12月まで)

□申し込み
8月15日(木)から材料費を添えて勤労青少年ホ
ムへ。(定員になりしだい締切ります)受付時間
は午後1時から8時30分まで(日曜日は午前10
時から午後5時まで) 毎週火曜日は休館です。
□問い合わせ—同ホーム△20500

かつてこの都市も戦火に焼かれた
国破れて山河あり
城春にして草木深し
あの哀えをこの賑わいに
よみがえらせた力は何か
あの貧しさをこの豊かさに
よみがえらせた力は何か
(歌詞から)

レコード
「前橋市の歌」頒布
「前橋市の歌
交声曲 赤城嶺に」
のレコードは、市
文化協会事務局(社
会教育課内△内線
4023)で1枚
1000円で頒布して
います。
演奏会に参加を
今年も市の歌の
演奏が10月27日(日)

生涯学習の作文募集
私たちは、豊かな心と健康で
生きがいのある生活を求めて、
家庭・職場・地域で様々な学習
活動・文化活動・奉仕活動・ス
ポーツ活動などに参加していま
す。これらの活動に参加した貴
重な体験や身近な人の活動から
学んだこと・心に残ったこと・
多くの人に訴えたいことなどを
書いて応募してください。
対象小・中・高 応募要項
原稿は十二百字程度(原則とし
て四百字詰め原稿用紙・縦書
き) 申し込み住所・氏名・
性別・生年月日・職業または学
校・学年名を添えて9月20日(金)
までに〒370前橋市文京町二丁目
19-16、県教育文化事業団「生
涯学習作文募集係」 問い合わ
せ△同事業団△23960

「いじめ」の
人権相談も
「いじめ」は、子どもが心身
ともに健康で希望を持って生き
る権利——基本的人権を奪うも
のです。
法務局の常設相談所、人権推
進委員は、この「いじめ」の問
題も取り扱っています。
常設相談所 月曜～土曜、午前
9時～午後4時(土曜は正午ま
で、前橋地方方法務局(大手町二
丁目△24464) 特設相談
所 毎月第三金曜、午後1時～
4時、市役所市民相談室

壮年期からの
ほけん
□地区の成人健康相談
8月15日(木)二之宮町公民館
8月22日(木)今井町集落センタ
ー いずれも午前9時～正午。
30分～午後4時

「予防接種」の
何でも相談
市では、市医師会の協力によ
り「予防接種相談週間」を昨年
に引き続き行います。予防接種
は法律に基づいて行われるもの
で、子供の健康にも大変関係が
あります。接種の受け方、受け
る順序、回数、年齢など予防接
種に関する相談を何でもお受け
します。
日時8月8日(木)～17日(土)、午
前9時～午後4時(土曜は午前
11時30分まで、日曜は休み)
会場予防接種センター(朝日
町四丁目) 相談方法面談ま
たは電話△5112

雷から身を守るう
夏は雷のシーズン、前橋も雷
の名所です。元気象庁職員で市
政モニター青木恵一朗さん荒
牧町四丁目、雷害から身を守る
コツを教えてくださいました。
▽日常生活の場で……
1、電光から稲妻までの間が三
秒くらい以下に短くなつたら、
要注意。
2、ヒョウを降らせる雷は特に
強いと考えること。
3、雨やどりは、畑やゴルフ場
など広々とした所にある高い立
木の下は危険。金属製の道具や
装身具は体から離すこと。
4、激しい雷雨中の自転車、自
動車の走行は危険。近くに落雷
すればショックで運転を誤まり
やすいし、視野も狭まる。
5、屋内では、ふる場や台所な
ど水気の多い所は避ける。なる
べく広い部屋の真ん中にいるの
がよい。電気の安全器は早めに
「切」にしておく方がよい。
▽登山などに出かけたら……
1、必ず小型ラジオを携帯し、
天気予報や山の雷雨注意報など
を聞く。空雷(ガリガリいう雑
音)がひどくなつたら危険信号。
2、山の雷は午前中にも起こる。
山自体が雷雲に包まれると霧の
中のように錯覚し、不意打ちを
食ひやすい。
3、尾根は危険。凹地へ下り、
金属の装身具を体から離して低い
姿勢をとる。乾いた洞穴や岩陰
に逃げ込めれば理想的。
4、山の中にある送電柱(塔)
や送電線には近寄らない。

精神衛生相談
電話相談△7721 日時
毎週土曜午前9時～正午(面
接相談) 日時8月20日(火)午後
1時30分～4時 会場保健所
申し込み事前に電話で予約

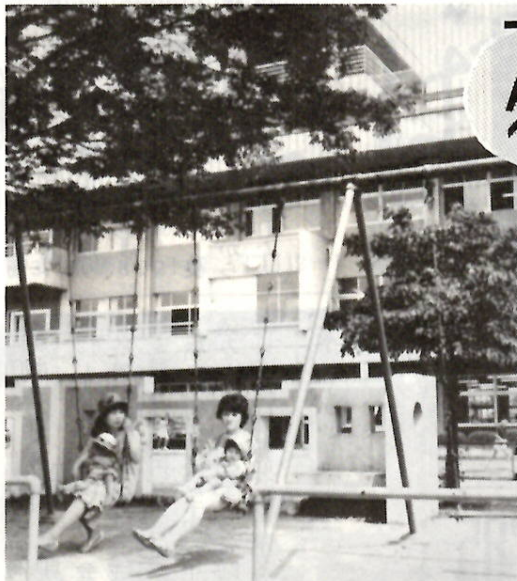
献血にご協力を
8月10日(土)①Aコープ芳賀店
午前10時～正午②松浦白川店
午後1時30分～午後3時30分
8月19日(月)市役所、午前9時
30分～午後4時

夏の行事

児童文化センター



☎24-2548



涼しい日陰を作る緑の木立がいっぱい

□化学教室「花や葉を使った実験、試験紙作り」
8月11日(日)午前9時～正午、小3～中3、先着四十人。講師は元総社中教諭・金子喜代次さん。申し込みは8月4日(日)から。

□物語教室「人形劇と映画会」
8月11日(日)午後1時～3時、幼児～小6、先着六十人。講師は人形劇研究家・阿部セツ子さん。申し込みは8月4日(日)から。

□電気教室「パソコン」
8月14日(水)～18日(日)午前10時～正午②午後1時～3時、小4～中3、いずれも先着二十人。市職員・養田雅香さん、小池佳一さん。申し込みは8月7日(水)から。

□地学教室「化石を見る」
8月22日(木)午前8時～午後2時、小4～中3、先着四十人。講師は地学教室・宇野恵さん。申し込みは8月15日(水)から。

□生物教室「昆虫の観察」
8月23日(金)午前9時～午後2時、小3～中3、先着四十人。講師は元総社中教諭・青木純郎さん。申し込みは8月16日(金)から。

□化学教室「せいのを作る」
8月23日(金)午後1時～4時、小3～中3、先着四十人。講師は群大附属小教諭・小山文義さん。申し込みは8月16日(金)から。

□造形教室「紙粘土でお面作り」
8月24日(土)午前9時～午後2時、小1～小3、先着三十人。講師は工芸家・芝崎敬子さん。申し込みは8月17日(土)から。

□歴史教室「赤堀方面の史跡巡り」
8月24日(土)午前9時～午後3時、小4～中3、先着四十人。講師は市教育委員会・前原照子さん。申し込みは8月17日(土)から。

□ふるさと教室「けしきを作る」
8月22日(木)午前9時～正午、小3～小6、先着四十人。講師はこけし研究家・宮下はじめさん。申し込みは8月8日(水)から。

□市民天文教室
8月18日(日)午後1時～3時、一般先着四十人。講師は元総社中教諭・松井和夫さん。8月11日(日)から。

□市民文化会館
☎4321
曲目「パッパ作曲」短調
入場料「S席七千円、A席六千円、B席五千円、C席四千円、D席三千円」前売り「8月11日(日)午前8時40分、当日午前7時から入場席別整理券を発行(一人一枚、当日のチケットは一人五枚まで)

★「サウンド・オブ・ミュージック」
有名ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」がやって来ます。ユーモアあふれるセリフ、華やかなダンスシーン、「ドレミの歌」など楽しい曲がいっぱい。

日時「11月10日(日)午後2時」出演「島田祐子ほか二期会」入場料「A席三千円、B席二千円、子供(小学生まで)半額」前売り「8月25日(日)午前8時40分から」
★小沢征爾指揮
新日本フィル公演
日時「10月30日(水)午後6時30分」

□思い出の映画劇場
8月8日(水)「野生のエルザ」J・ヒル監督 B・トラヴァー
8月7日(火)「マスコット作り」
8月21日(水)「シャボン玉遊び」
8月28日(水)「映画会」9月4日(水)「紙芝居」
8月28日(水)「映画会」9月4日(水)「紙芝居」
8月28日(水)「映画会」9月4日(水)「紙芝居」

□新着フィルム映画会
8月14日(水)「ヒロシマ・ナガサキ」午後0時10分からと午後3時から

□8月の図画作品展
今月は、天川小、大根小、天神小、荒砥中、第一中、三階展示室。

□夏休み親子自転車教室
8月14日(水)・15日(木)・16日(金)・17日(土)・18日(日)午前9時～10時、小1～中3の自転車に乗れない子、いずれも親子で先着二十組。申し込みは8月4日(日)から。

□子供映画会
8月20日(火)「あじゅとずしお」午前10時30分からと午後2時から

★日吉児童館 ☎35122
8月21日(水)紙芝居 8月28日(水)映画会 9月4日(水)紙芝居
▽童話を聞く日は夏休み中は休み
▽行事の始まりは午後3時
▽夏休み中はクラブ活動(手芸・工作)があります

★朝倉児童館 ☎51955
8月7日(火)マスコット作り
8月21日(水)シャボン玉遊び
8月28日(水)映画会 9月4日(水)紙芝居
8月28日(水)映画会 9月4日(水)紙芝居

□図書だより
☎24局4311

□健康手帳
甲狀腺は、身体の発育に重要な作用を持つている各種のホルモンを分泌する内分泌器官です。頭(けい)部の中央部に位置し、右葉、左葉とこれを結合する峡(はざま)に分けられていて、左右とも、およそ栗の実ぐらいの大きさです。普通の健康人では皮膚の表面からは判断できないし、解つてもはつきり確認できません。

この甲狀腺がまれに腫脹(ふくら)し、いわゆる「のどぼとけ」のやや下部が隆起してくるものとあります。これが甲狀腺腫といわれるもので、大部分は良性腫瘍(よい)う。または慢性炎症といわれるタイプの腫瘍で、甲狀腺の機能が高進して、甲狀腺が肥大したバセドウ氏病などがよく知られています。しかし、頻度はあまり高くありませんが、甲狀腺にもがんが発生します。甲狀腺がんは、病理学的に腺がん、髄様がん、未分化がんなどに分けられていて、そのおのおの性質・発生・発育・悪性度・予後などに

児童館あそび

日時「11月10日(日)午後2時」出演「島田祐子ほか二期会」入場料「A席三千円、B席二千円、子供(小学生まで)半額」前売り「8月25日(日)午前8時40分から」

★朝倉児童館 ☎51955
8月7日(火)マスコット作り
8月21日(水)シャボン玉遊び
8月28日(水)映画会 9月4日(水)紙芝居
8月28日(水)映画会 9月4日(水)紙芝居

□健康手帳
甲狀腺は、身体の発育に重要な作用を持つている各種のホルモンを分泌する内分泌器官です。頭(けい)部の中央部に位置し、右葉、左葉とこれを結合する峡(はざま)に分けられていて、左右とも、およそ栗の実ぐらいの大きさです。普通の健康人では皮膚の表面からは判断できないし、解つてもはつきり確認できません。

健康手帳

この甲狀腺がまれに腫脹(ふくら)し、いわゆる「のどぼとけ」のやや下部が隆起してくるものとあります。これが甲狀腺腫といわれるもので、大部分は良性腫瘍(よい)う。または慢性炎症といわれるタイプの腫瘍で、甲狀腺の機能が高進して、甲狀腺が肥大したバセドウ氏病などがよく知られています。しかし、頻度はあまり高くありませんが、甲狀腺にもがんが発生します。甲狀腺がんは、病理学的に腺がん、髄様がん、未分化がんなどに分けられていて、そのおのおの性質・発生・発育・悪性度・予後などに

甲狀腺がん
甲狀腺がんには経過が長く比較的予後の良いものと、非常に経過が速く悪性の強いタイプのものがあります。甲狀腺がんの治療法は他の臓器のがんと同じように早期発見、早期手術が第一です。頸部腫大を認めたら放置せず、すぐに医師の診断を受けることが必要です。

診断することもあります。甲狀腺がんには経過が長く比較的予後の良いものと、非常に経過が速く悪性の強いタイプのものがあります。甲狀腺がんの治療法は他の臓器のがんと同じように早期発見、早期手術が第一です。頸部腫大を認めたら放置せず、すぐに医師の診断を受けることが必要です。

健康手帳

この甲狀腺がまれに腫脹(ふくら)し、いわゆる「のどぼとけ」のやや下部が隆起してくるものとあります。これが甲狀腺腫といわれるもので、大部分は良性腫瘍(よい)う。または慢性炎症といわれるタイプの腫瘍で、甲狀腺の機能が高進して、甲狀腺が肥大したバセドウ氏病などがよく知られています。しかし、頻度はあまり高くありませんが、甲狀腺にもがんが発生します。甲狀腺がんは、病理学的に腺がん、髄様がん、未分化がんなどに分けられていて、そのおのおの性質・発生・発育・悪性度・予後などに

甲狀腺がん
甲狀腺がんには経過が長く比較的予後の良いものと、非常に経過が速く悪性の強いタイプのものがあります。甲狀腺がんの治療法は他の臓器のがんと同じように早期発見、早期手術が第一です。頸部腫大を認めたら放置せず、すぐに医師の診断を受けることが必要です。

診断することもあります。甲狀腺がんには経過が長く比較的予後の良いものと、非常に経過が速く悪性の強いタイプのものがあります。甲狀腺がんの治療法は他の臓器のがんと同じように早期発見、早期手術が第一です。頸部腫大を認めたら放置せず、すぐに医師の診断を受けることが必要です。

健康手帳

この甲狀腺がまれに腫脹(ふくら)し、いわゆる「のどぼとけ」のやや下部が隆起してくるものとあります。これが甲狀腺腫といわれるもので、大部分は良性腫瘍(よい)う。または慢性炎症といわれるタイプの腫瘍で、甲狀腺の機能が高進して、甲狀腺が肥大したバセドウ氏病などがよく知られています。しかし、頻度はあまり高くありませんが、甲狀腺にもがんが発生します。甲狀腺がんは、病理学的に腺がん、髄様がん、未分化がんなどに分けられていて、そのおのおの性質・発生・発育・悪性度・予後などに

甲狀腺がん
甲狀腺がんには経過が長く比較的予後の良いものと、非常に経過が速く悪性の強いタイプのものがあります。甲狀腺がんの治療法は他の臓器のがんと同じように早期発見、早期手術が第一です。頸部腫大を認めたら放置せず、すぐに医師の診断を受けることが必要です。

診断することもあります。甲狀腺がんには経過が長く比較的予後の良いものと、非常に経過が速く悪性の強いタイプのものがあります。甲狀腺がんの治療法は他の臓器のがんと同じように早期発見、早期手術が第一です。頸部腫大を認めたら放置せず、すぐに医師の診断を受けることが必要です。

ゴミは正しく区別して 決められた日の朝8時に

□朝8時までに

決められた日の朝8時までに、燃やせるゴミと燃やせないゴミを区別して、町内の集積場所へ持ち出してください。

□燃やせるゴミを出す場合

お勝手ゴミはよく水分を切つて、紙くず、ぼろくずなどと一緒に袋に詰め、口を固く結んでください。枝木は長さ六十センチ、直径三十センチ以内に切つて少しづつ出してください。

□燃やせないゴミ・危険物を出す場合

ガラスくず、陶器くず、空き瓶、空き缶などはまとめて袋に詰めてください。灰は完全に消火して出しましょう。ビニールくず、ポリエチレン製品、発泡スチロールは束ねて出してください。

□粗大ゴミを出す場合

家具(台所・机・いす)、家庭電気製品(テレビ・洗濯機・冷蔵庫、じゅうたん、古自転車などは、集積場所には出さないで

自己搬入をするか、西部清掃事務所 ☎5074 に申し込んでください。

○お問い合わせは環境整備課 ☎内線3273へ。

犬・猫の引き取り

群大病院西構内・アニマルプールの前で行っている、不用犬・猫の引き取りの今月の日程は次のとおりです。

日時「8月6日(火)・12日(月)・20日(火)・27日(火)」午前9時～10時
用意「印鑑 問い合わせ」保健所 ☎7721 または環境整備課 ☎内線3274

市役所は、〒371前橋市大手町二丁目12-1 ☎24-1111です。

分類	種類	注意
燃やせるゴミ	野菜くず、茶がら、残飯、果物の皮、料理くずなど	・よく水を切る。 ・できるだけ庭先に埋め立て花土類の肥料に役立てる。
紙くず	チリ紙、紙カップ、油紙、古新聞、ダンボール、古雑誌など	古紙類(古新聞、ダンボール、古雑誌)はできるだけ資源回収に出す。
木くず	板くず、棒きれ	長いものは、60センチ位に切って30センチ位の束にして小出しにする。(2～3束)
枝木	枝木	「
落葉・草	落葉・草	・できるだけ肥料に役立てる。 ・小出しにする。(2～3袋)
繊維くず	ボロ切れ	「
ふとん	木綿ふとん	片手で軽く持てる程度に切って出す。きちんとしぼる。
カーペット・ジュタン	純毛製カーペット 純毛製ジュタン	片手で軽く持てる程度に小さく切って出す。きちんとしぼる。
家具類	いす、机、ベッド、タンスなど	長さ60センチ位、30センチ位の束にできるぐらいにこわして出す。(2束ぐらいずつ分けて出す) 金具→不燃物

分類	種類	注意
陶磁器	茶碗、皿、植木鉢など	「
ガラス	割れたガラス、ガラスくずなど	「
空き瓶	油瓶、化粧品瓶、薬瓶、飲料水瓶、調味料瓶、こわれた瓶など	再利用できる瓶は廃品回収にまわす。 中身を完全に抜いて出す。
空き缶	缶ジュース、のり、茶、菓子、缶詰、ミルク、石油缶など	再利用できる缶は廃品回収にまわす。 中身を完全に抜いて出す。
プラスチック類	ポリ皿、発泡スチロール製品、すだれ、ハンドバック、買物かご、ポリ容器、履物、包装、ビニール、おもちゃなど	「
金属	なべ、やかん、鉄くずなど	再利用できる鉄は廃品回収にまわす。
ふとん	化学繊維製ふとん	片手で軽く持てる程度に切って出す。きちんとしぼる。
カーペット・ジュタン	化学繊維製カーペット ジュタン	片手で軽く持てる程度に切って出す。きちんとしぼる。
灰	灰、燃え殻	・庭先に埋め立て花土類の肥料に役立てる。 ・必ず火を消して出す。 ・きちんとしぼって出す。
使用済み乾電池	単一・単二・単三など	袋に入れて「乾電池」と明記する。

3. 粗大ゴミ(清掃工場に自分で持ち込むか、西部清掃事務所へ申し込む)
☎5074
洗濯機、冷蔵庫、テレビ(中型以上)、クーラー、ストーブ、机、タンス、戸棚、ベッド、流し台、自転車など

二情報



試験日10月13日(日)(第一次、10月14日(月)(第二次) 会場 前橋刑務所男子、栃木刑務所(女子) 申込用紙の交付 前橋刑務所(南町一丁目) 問い合わせ 〇四二四七

能力再開発 訓練生募集

群馬技能開発センター (高崎市栄町) では、十月入所の能力再開発訓練生を募集しています。訓練職種・定員 機械十人、板金二十人、溶接二十人、電子機器二十人、自動車整備十五人、塗装二十人、訓練期間 一年

市民の茶席

8月25日(日) 午前10時 午後3時 臨江閣茶室。当番は前橋茶道会の高草木宗美さん

地区朝市

8月11日(日) 〇朝6時30分 〇朝6時30分 〇朝6時30分 〇朝6時30分 〇朝6時30分

刑務官の採用試験

受付期間 8月23日(金) 〇9月5日(木) 〇9月5日(木) 〇9月5日(木) 〇9月5日(木)



天川大島町 阿久沢裕子 31

あたたかいこころ

現金四十五万四千円 栃木県宇都宮市・ステークス宮(鈴木栄一代表) から、身体障害者福祉のために。

現金十二万七千円、図書券五千円分 匿名の方から、中国からの帰国者のために。 現金十萬五千五百八円 〇たかしん前南会(片桐清会長) から、社会福祉のために。 〇座ぐり一台、手紡機一式、さ

編物技能検定

日時 9月15日(日) 午前9時 午後4時 会場 〇県婦人会館(大手町三丁目)

群馬青年美術展を開催

本年度も公募による「群馬青年美術展」を開催します。入場は無料です。期間 8月25日(日)まで、午前9時30分 午後5時(入場は午後4時30分まで) 月曜休館 会場 〇県立近代美術館(高崎市岩鼻町 〇四二七三 〇四二七三)

エアコンは快適に

外気温の変化に応じて、ダイヤルを手まめに調整してお使いください。 冷たい空気は、下にたまりがちです。吹き出し口は上向きにして、部屋中に効率よく冷気が行きわたります。 エアコンを止めてからまたす



牛池川にホテルを 鈴木 肇さん(39) 〇問屋町二丁目三 〇三

「牛池川の豊かな思い出を育(はぐく)む会」という団体がある。元総社北小学校通学区を中心とした地域の組織で、牛池川の自然環境を守り子供たちにより思い出を残そうと、五十八年に設立された。その会長を務める。 「PTAの役職の横滑り」と

漏電遮断器のチェック方法

漏電 遮断器 備え 家庭が多くなりました。大雨や台風などの時、電気が消えたら配電盤を調べてください。機器や配線に水がかかったりして漏電遮断器が働いて、電気が消えることがあります。次の手順で点検してください。 ①アンペア・安全ブレーカー、漏電遮断器が「入」になっているかを確認する ②漏電遮断器が切れていたら次の手順で調べる

相談

〇心配ごと相談 8月5日(月) 〇母子福祉センター 8月22日(金) 〇7日(水) 〇9日(金) 〇中央公民館 いずれも午後1時 〇4時(8月第三週はお休みです)

前橋けいりん

8月5日(月)まで第一回全日本選抜競輪と、24日(土) 〇25日(日) 〇26日(月) 〇31日(土) 〇9月1日(日) 〇2日(月)に開催します。 〇：当日は競輪場付近の交通混雑が予想されますので、みなさんのご協力をお願いします。

今年の交通事故

一月 〇五月(一)は前年同期 〇件数 〇九三件(八四六件) 〇死者 〇一人(〇一人) 〇傷者 〇二八八(九四九人) 〇：お問い合わせは東京電力前橋営業所 〇四二一五五へ。

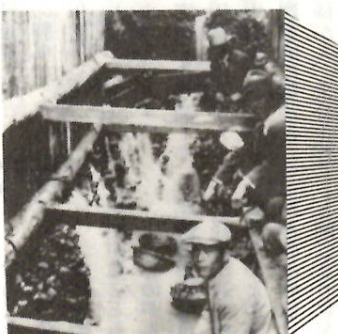


「ホテルは、幻想的で人々の郷愁を誘う生き物ですが、川の水のきれいを示すバロメーターでもあるんです。ホテルを呼ぶ戻すことは、みんなを大切にしたいにしたいにすることなんです」 〇育む会にかかわって自然環境の大事さを知った。交際範囲も広がった。 「いろんな人と出会う、おもしろいじゃないですか」

新・まえばし風土記

集水埋管工事のこと

上水道ものがたり(三)



「水は半分しか出ていないんじゃないか、一体、部長はこれをどうするつもりだ」 「水が少ないうちは、予想されなかった岩盤の層のせいでいいから、この下の砂の層まで、更に十尺掘り下げればきつと出ると思います」 〇なるように鋭い質問を浴びせる委員。慎重に言葉を選んで弁明する岡崎水道部長。いきなり立つ委員に対して、岡崎の面持ちには、しかし必ずしも確信がもたれてはいない。 〇四月四日(昭和二年)の水道工務委員会は、水道工事の現場で開かれていた。設計と掘り入れ、人孔井と集水埋管の掘削工事が進められ、大方終わったというのに、肝心の地下水が予定量に達していない、という重要な問題が議題である。水量不足は工事の進行につれて決定的だった。この厳しい事実、少なからず関係者を慌てさせ、不安を募らせるものとなっていた。 〇工務委員側は、その問題は専門家の領分であるとして、一応静観の態度を守ってきたのだが、「もう少し待ってみてほしい」と言いながら、さっぱり対策を講じていないらしい当局に、業をやし始めていた。水道顧問の佐野藤次郎工学博士の前の委員会での発言「出るか出ないかは一年もたつてみなければわからない」も、委員たちの感情に響くことはできなかった。 〇十月中旬、集水埋管に水があふれた。とうとうと、その量は七個(個は毎秒立方尺流出量)にも上っていた。全所要量は七個半、埋管工事はまだ四分の一、済んだところだ。これなら、最悪水期でも十個の水量は間違いないところである。 〇岡崎は狂喜した。しかし、既に顧問を引責辞職していた佐野博士は、皮肉にもこの喜びを共にすることはできなかった。

